

六稜舎報

NO. 25

1992・9・20

平成4年9月20日発行
発行 大阪府立北野高等学校内
六 稜 同 窓 会
〒532 淀川区新北野2-5-13
電話 06(306)0374 代表
振替 大阪9-068025
六稜同窓会名簿刊行会
振替 大阪1-309004
編集 山本次郎・岸田知子・鎌田俊一
印刷 フジエフォート印刷
電 話 0729(87)8254



(大阪府立北野高校)

六稜の星のしるしを…

「中」を六つの尖角に仕立てたデザインはまさにピカ一。

実に一世紀も昔の前身、大阪府尋常中学校時代の制定。

今、淀川区内六中学校中、五校までが、伝統に「あやかろう」と「六稜の星」を使う。

その昔、難波御堂に、

箕島に次ぎて北野に…

来年が、創立百二十周年。

〈北野〉の名は、現校舎に移る前、済生会病院の位置に在ったから。十三で六十年。

遷歴に当たるといえば、昭和二十一年六月、空襲下の学校防衛中、校庭の防空壕に焼夷

弾を受け焼死した北中二年生二人、池田彰太、中島賢昌の

両君もご存命ならば、遺贈だ。校舎西壁に残る三十発の弾

痕も、当時を語る生き証人。

高校になり選抜野球優勝、ラグビー大阪代表、大楠は、平和な年輪を刻み続けている。

119周年総会

会場 母校 北野高等学校

大阪市淀川区新北野2丁目5番13号

☎06-303-5661

日時 11月8日(日)

0:00 PM 受付

1:00 PM 総会

2:20 PM 恩師のミニ講義 (水鳥、西田(驍)、寺田(正)、
田上、中村(弘)先生ほか)

3:00 PM パーティー開宴

(新人歓迎 立食パーティー・ビール飲み放題)

会費 5,000円 (但し、S63卒以降—卒業5年以内と) ※乞う
S10卒以前—75歳以上の方—無料 出席通知

卓話



「大坂町人の生活感覚」

大阪大学文学部教授

脇田 修氏 (62期)

卓話者略歴

1931年3月14日大阪に生まれる。曾根崎小学校を経て、1944年旧制北野中学入学、48年同4年修了、旧制大阪高校1年から、49年京都大学文学部入学、53年同史学科国史学専攻卒業、58年同大学院博士課程修了。文学博士。

住友修史室嘱託、66年龍谷大学文学部助教授のち、68年大阪大学文学部に移り、国史学講座助教授、84年教授となる。90.4~92.3学部長。

日本近世史専攻。

著書には、一般的なものとして

「織田信長」「秀吉の経済感覚」(中公新書)「教養人の日本史(3)」(社会思想社)

「近世大坂の町と人」(人文書院)などがある。

なお、専門書では「近世封建社会の経済構造」(御茶の水書房)「織田政権の基礎構造」

「近世封建制成立史論」(織豊政権の分析I・II)「河原巻物の世界」(東京大学出版会)

「住友と札差業」(住友修史室)「元禄の社会」(塙書房)など。

百二十周年記念事業委員会から ご報告とお願い

(一) 六稜同窓会員の皆様、日ごろは同窓会活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

おかげさまで、来年の創立百二十周年にむけて、記念事業実行委員会も順調にスタートし、各事業の準備も進捗中です。募金活動も、1800名を越える皆様のあたたかいお志をお寄せいただき、7月初めの趣意書発送以来2ヶ月で一千七百万円に達しました。重ねて、厚くお礼申し上げます。

とは申しましても、募金目標額の一億円にはまだほど遠く、皆様方のさらなるご理解とお力添えをいただきたく、心からお願い申し上げます。

(二) 来年の創立百二十周年記念式典での講演は、森 毅 氏（58期 京都大学名誉教授）をお願いすることがまりました。

また、昨年の六稜会報 No.24 でお知らせ致しました「120周年記念事業アイデア募集」には、多くの会員からすばらしいアイデアのかずかずをお寄せいただきました。誌面をかりてお礼申し上げます。

常任理事会、ならびに記念事業実行委員会でも慎重に検討させていただきました結果、谷 卓 司 氏（98期）の「映像で綴るわが北野120年の歩み」を採用することに決定致しました。

谷氏の構想している表現媒体は、マルチスライドプロジェクション、いわば電気の紙芝居といったもので、複数のスライドプロジェクターを連動させて、1枚のスクリーンに静止画を動的に上映させる方法です。

このアイデアを、フェスティバルホールの空間でどのように活かすことができるか、現在、記念行事演出担当の西村一男氏（60期）を中心に検討しております。

なお、上映するソフトウェアとして、学校所蔵の写真類はもとより、報道機関に呼びかけて、北野関係の写真・映像資料を収集するつもりですが、同窓の皆様のお手許に貴重な写真・フィルム等がございましたら、ご一報下さいますよう、ご協力をお願い申し上げます。

1992年9月20日

六稜同窓会会長 鴻池 藤一
百二十周年記念事業委員長

昨年の総会から

卓話 めまい

大阪大学医学部付属病院院長

松永 亨 (60期)

ただ今ご紹介いただきました松永でございます。本日は六楼同窓会の総会でたくさん同窓の方々の前でお話しさせていただきますことを大変光栄に存じますとともにうれしく存じます。

私、病院長をやりましてちょうど1年経っております。お話をすると言われましたときに、いったい何を話そうかと思ったんです。大阪大学医学部付属病院の現状といったことから病院の移転とかあるいは脳死あるいは移植の問題あるいは病院の跡地をどうするか、そういった問題をお話ししようとしたんですが、どうもまだすべてが中途半端でございます。そこで結局、私の専門である「めまい」の話を進めさせていただくのがいいのではなからうかと思ひます。

「めまい」とはどういうことが簡単に定義致しますと、「自分のからだ・外界が静止しているはずなのに自分のからだ・外界が動く感じ、しかも不快な異常知覚」こういうのを「めまい」といっております。カイヨワという人が確か「遊びと人間」という本を書いております。その中に、遊びには四つの因子がある、一つは模倣ということ。芝居なんかをしまして自分がある役になりかわってなりきってやっていく、あれは非常に遊びとしては面白いことになる訳ですね。もう一つはやはり競争です。一所懸命にものごうまくなって他と競争して一等になった、これも遊びとしては非常に面白い因子です。三番目は偶然ですね。要するに賭けです。競馬とか競輪とかああいうふうな偶然に賭けるといふ、これも遊びとしては非常に面白い因子です。四番目にある因子が「めまい」なんです。カイヨワという人は「めまい」をどういっているかと言いますと、「明晰な知覚に一瞬の乱れを起こして、快いパニック状態をおこすもの」これを「めまい」と呼んでいるんです。そうしますと皆様方も子供のときにご経験がおありと思いますが、「マイマイコ」と言ひましてグルグルッとまわってパッと止まってあとフワーとめまいが起ります。あるいはジェットコースターですね、ああいうふうなもの一つ非常に大きな遊びになります。それからこの頃アメリカではドラッグがはやっておりますけれども、マリファナ、コカインそれからモルヒネ、ああいうのは全部やはりそういう知覚を崩しまして、一瞬の快いパニック状態を起こしているというふうに考えていいかと思ひます。それからスピードですね、この頃暴走族とかが非常に速いスピードで走る、あれはやはり快いんです。あるいは音楽がそうです。ロックなんかもそういう状態だと思ひます。そ

ういった意味で、「めまい」というのは自分で求めますと非常に快いものなんです。だから現在の世の中というのは皆「めまい」を求めて進んでいっているんじゃないかと思ひます。ところがそれがパッシヴつまり受動的にめまいが起こって来ると不安なんです。後の方でまた申しますけれども、「めまい」というのがやはりドンドン増えて来ている。それはなぜだろうかというお話は後にさせていただきますとしまして、こういう「めまい」がどうして起こってくるんだらうかという話をしたいと思ひます。

「めまい」にかかれた方がおられるかも知れませんが、内耳の病気にメニエール病という病気がございます。グルグルッという激しい回転性の「めまい」がありまして、そして耳鳴り・難聴が来ます。こういう「めまい」のときは立っていることができません。ひっくりかえってしまいます。私はこうして姿勢正しく立つことができます。皆さんがたも座っておられます、立ち上がります、歩きます、こういった身体のバランスを取っているのは何かと言ひますと、両方の耳、耳の中にもいわゆる回転あるいは直線・加速度を感受します前庭半器官という部分がございます。それから目ですね、それから関節とか筋肉の中に深部知覚、足を上げまして曲げますと、だいたい何度ぐらい曲がっているなということが、お解りになるかと思ひますが、そういうのは深部知覚ですね、こういったものの情報が脳の中に入って来てうまく統合されて身体のバランスをとっている訳なんです。こういうバランスの取り方は無意識に行われている訳なんです。ところがこのバランスを取る情報の間に、乱れが起こって参りますと、これは「めまい」になります。で、なぜ「めまい」を内科ではなく耳鼻科であつたのかといひますと、耳は二つございまして、音を聞く部分とそれから身体のバランスをとる部分がございますけれども、この音はですね、二つの耳によりまして、音がどの方向からやって来るかということが判断できる訳ですね、目は左右ございましてどうしてかと言ひますと、遠近感を判断するのはこの両眼でございます。深部知覚器というのは左右あるけれどもこれはどうしているかと言ひますと、あまり関係はありません。例えば皆さん座っておられて、足がしびれた状態を考えてください。片一方の足がしびれましたら、片ちんばひきながら歩くような状態でありめまいということに関係がない訳なんです。ところが耳がやられますと、メニエール病のように激しい「めまい」が起こって来るものですから、「めまい」は耳鼻科でやろうかという歴史的な形で耳鼻科医がやるようになった訳でございます。さらにまた、こういった身体のバランスをとるのになんで耳・目・深部知覚、そういったものが関係するのか、これはご承知のように低級な動物におきまして、嗅覚と平衡、バランスをとるということは非常に大事でございます。危険が迫って逃げる、あるいは食料を取りに走る、こういったことは身体のバランスがとれていないとどうしてもできません。ですからいったん身体のバランスが崩れますと生命に関係致しますので、何重にも身体のバランスをとるように

働いているとお考えくださればいいかと思ひます。最近「宇宙酔い」というのがございます。スペースシャトルなんかで宇宙に上がって行きますときに、やはり酔いがおこりめまい・むかつき・あげるという現象が現れて参ります。地上でも乗り物酔いというかたちでこの現象がある訳でございませう。お子さん・お孫さんをおもちの方はですわ、バスや船に酔うために遠足などにも行けないということを経験なさることがあるかと思ひますが、この酔いも一つの「めまい」でございませう。なぜかと申しますと、私たちは生まれて2本足で立って座ったり立ったり歩いたりする訳ですわ、その際の目の情報・耳の情報・深部知覚の情報が脳の中に蓄えられる訳であります。こういった情報の蓄えられた中に、バスなどに参りますと全く今までと違つた情報が脳の中に入つて参ります。そこで感覚の混乱が起こつて来る訳ですわ。たいしたことがなければそのまま過ぎて行くんですが、それに適応できないような人、いろいろ体質の問題とかがからんで参ります酔いやすい人というのはお母さんが非常に酔いやすかったとか、お父さんお母さん両方酔いやすかったとか、そういうものが関係して来る訳ですけれども、それにうまく適応できないということになると、酔いが起こつて参ります。ですから、めまいというのは感覚混乱であり、感覚混乱に結びつく情報は目・耳それから深部知覚、こういった感覚のミスマッチがあるということが「めまい」になると考えてくだされば理解しやすいのではないかと思ひ次第でございませう。

それでは、次は「めまい」の現状ですが、戦争中はめまいなんて訴える人はほとんどいなくなつたのではないかと思ひます。私たちの病院の外来には年間5~6000人の新しい患者さんが来られます。昭和38年頃は全患者数の1.5%ぐらいがめまいを訴える患者さんでした。それが12%ぐらいになっております。耳鼻科に10%以上訴えがある病気というのは非常に問題でございませう。なぜそんなつて来たのかということが問題になって来ます。最近では近代化、非常に日常生活が忙しい、ストレスに充ちている、ということがありますし、あるいは戦後はいわゆる経済成長といったものが大きな価値観になっておりました。それに向かつてまっしぐらと言う形でございませうから、右顧左眊することがありません。ところが最近では価値観が乱れて、一体どういふふうにするんだらいいのだらうか、そういうふうな不安がございませう。また、価値観が乱れて来ますと人間はえてして欲望のままに進む訳ですから、自分のことばかり一生懸命に考えるようになりますわ。そういったことと不安というもの非常に結びついて参ります。人のために一生懸命にやつてますと不安などはすつ飛んでしまうのではなからうかと思ひますけれども、そういう生活・価値観、近代生活の慌ただしさというものが結びついて、「めまい」というものがだんだん増えて来ているのではないかと思ひ訳でございませう。しかしそう言ひましても、耳鼻科のほうではメニエール病というものがあるんですが、これは年間50例ぐらいの患者さんです、決して増えている訳ではございませ

せん。あるいはある日急に顔が曲がつてしまった、これをベル麻痺と申しますけれども、そういう患者さんも増えている訳ではありません。あるいはある日急に耳が聞こえなくなった、これを突発性難聴と申します。こういうふうな患者さんも決して増えている訳ではないんですね。ですけれどもこう言つた病気の方によく聞いてみますと非常に疲れておつたとか、オーバーワークでものごくストレスがあつたということをお申されませう。ですからストレスが関係していることは確かでございませう。ところが「めまい」の患者さんは先程言ひましたように昭和38年ごろの1.2%がドンドン増えているということになりますと、これはやはりストレスからくる訴えであるというふうにご考慮していいかと思ひます。で、この「めまい」の中に注意しておいていただきたいのは、二つの「めまい」があります。一つは生命に関係する「めまい」で、もう一つは生命に関係しない「めまい」です。わたしたち耳鼻咽喉科の耳の病気で起こつて来た「めまい」は、メニエール病をふくめまして、生命には関係ありません。脳の血管障害という形で起こつて来ます「めまい」、腫瘍によります「めまい」というのは生命に関係します。ですから素人的にですわ、どういふ判断をすればいいかと言ひますと、やはり意識障害があるとか、あるいは「めまい」と同時に激しい頭痛があるとかあるいはものが言ひにくくなつたとか、ものが二重に見えるとか、そういったいろいろ神経症状がある「めまい」というのは非常に危険でございませう。あるいは「めまい」は激しいのに全然えづいたりあげたりすることがない、そういうふうなものは非常に危険です。耳の病気の場合は、「めまい」が強ければ必ずあがるということとか冷や汗をかくとかいふことが一致致します。ですから、そういう症状の不一致というのは、これは生命に危険な「めまい」であると考えられて、すぐお医者さんへ行かれることだと思ひます。早速CTやらMRIをおとりになつたらいいんじゃないかと思ひます。耳の方の「めまい」も生命に関係ないと言ひましても大変不安でございませうので、専門医にご相談なさることが必要だと思ひます。

それではストレスが強ければどうして「めまい」になるんだらうか。「めまい」の患者さんはある日めまいが起こりますと、しばらくしたら直つてしまつた、内科のお医者さんに行かれても検査をしても何も異常がありません。ところがそれからしばらくするとまた起こつて来ます。検査してもあまり異状が無いのに「めまい」がある、大変これは不安なんですね。耳鼻科に行きましても大体原因のあるものは50%ぐらいです、原因のよく分からないものが50%です。なぜ原因がわからないのか、それは「めまい」というのは機能的な障害だからです。耳がつぶれた、あるいはめまいに関係する神経に炎症が起こつて「めまい」が起こつた、あるいは脳の中に出血が起こつて「めまい」が起こつて来た、こういったのは器質的な障害です。こういうのはだんだん、そのとき生命を取り留めますと、めまいが激しくてもだんだん消滅して行きます。それは生物におきましては、一つの機能がな

くなりますと、必ず代償作用というものでよくなって行くからであります。ですから器質的な障害の「めまい」というものは代償作用でよくなって行くんですが、機能的な障害による「めまい」というのは起こったときは機能的な障害で起こっているんですが、しばらくすると機能的な回復して何も無い。そういった所を原因不明の「めまい」と言いまして、わたしが35年間かけて、やっとわかったことはこれだけじゃなからうかと思っております。それは頭のほうに行きます血流、血管には左右の椎骨動脈と左右の内頸動脈があるわけですが、内頸動脈のほうはあまり「めまい」とは関係ありません。「めまい」と関係しますのは椎骨動脈でございます。左右の椎骨動脈が脳の中に入りまして一本の脳底動脈というのになります。この椎骨動脈の血管系に左右差が起こって参りますと、脳底動脈のところで渦巻きの流れのようになります。右あるいは左に行きます血の流れが非対称になって参ります。一番最初に、左右の耳のアンバランスがめまいを引き起こすということのをちょっと申し上げましたけれども、そういったものが感覚混乱を起こすことになって参ります。この椎骨動脈の血流の左右差と言いますのは自律神経特に頸部にあります交感神経というのが大きな働きを致しております。この左右差と申しますのは、超音波血流計で調べますとよくわかるんですが、域値以下の場合だと症状は出て来ません。ところがストレスで血圧が上がった時、あるいは仕事が終わって血圧が下がった時に椎骨動脈の血流に左右差がありましたら、左右の耳、あるいは脳幹に行っている動脈の流れの左右差が起こります。そうしますと神経の興奮性の左右差が起こってそれが感覚混乱のもとになる、ということでございます。あるいはストレスが非常に強い場合には血液中にカテコラミンというアドレナリンとかノルアドレナリンというのが出て来ます。これは血液の粘ちよう度を高めます。そして渦巻きの脳底動脈の流れに血液が詰こくなりますと、いわゆる一過性脳虚血発作というのですが、血管が一時的に詰まりまして、血流障害が起こる、それが溶けて流れますとあとは何にも症状はありません。そういった形でストレスというものは血圧の上下変動あるいは血液の粘ちよう度を高めるというふうないろいろの働きがあり、またカテコラミンが増えますと、血液の油分も増えます。油分が増えると血は粘こくなって、耳に行きます微小循環の障害などを起こして、「めまい」を引き起こすことになる訳でございます。

わたしは医学・医療に携わっている訳ですけども、医学とは一体どんな学問だろうかと言いますと、大阪大学の中興の祖といわれております佐多愛彦先生が、医学とは人を幸せにする学問であると言われております。では医療というのは何かというと、故武見医師会長が、医学を社会的に適用するものが医療であると言っております。そうしますと人を幸せにする学問を社会的に適用して行くことが医療といえるのではないかと思います。今いろいろとゆとりとか豊かさとかよく挙げられておりますけれども、どうも私はああいうのは手段のように思うん

です。もっと人間はそれぞれが幸せを求めて行くと案直に言ったほうがいいんじゃないでしょうか。健康ということがしきりに言われておりますけれども、健康も手段ですね、健康が決して目的ではない。私はそれぞれ何かひとつのものを人のためにやるということが目的になる、そのために健康であるというのが必要になってくるのではないかと思うのです。そういった意味で人の幸せという問題に関しましては、一番最初に宗教が非常に関係してくると思うのです。人というのはご承知のように身体と心から出来ておりまして、昔は修道院の所に施療院がございました。日本でも、寺院の横にそういった施療院がありまして、そしていろいろ身体の手当、そして心の問題というようなものも取りあげられていたわけでした。ところが最近、物質科学が進んで参りましてワトソン・クリックがDNAというものをみつけまして、生命科学が非常に勢いで進歩しております。そして最近では遺伝子工業などを利用致しまして、いろいろな薬ができました。あるいは病気を、遺伝子病をそれで直そうとすることも進んで来ておりますし、あるいはいろいろな遺伝子診断も現れて来ております。そういった形で物質科学から生命科学という診断が進むに従って心の問題、精神の問題というのがちょっと忘れられかけつつあるのではないのでしょうか。慶応大学の渡辺格という先生などは、現在は生命科学の花盛りであるけれどもこれからはやはり精神科学というものに進んで行く必要があるのではなからうかと言っておられます。私は「めまい」をやっております、それが感覚混乱からということになりますと、どうしても精神科学の問題を考えざるを得ません。ところが幸いなことには、このごろMRIとかCTとかあるいは脳波のトポグラフィとかあるいはまた最近では脳の中の磁気をキャッチする方法も出て参りました。これはやはりそういった物質科学からの発展のお陰でございますが、そういったものを利用して、無侵襲で何にも生体に害を与えずに精神の状態、人間を検査することが出来ます。そういったしますと、「めまい」それは脳の中で感覚混乱が起こっていると思う訳でございますけれども、そういった新しい方法論を用いまして、精神まで進んで行けるのではなからうかと思えます。21世紀は脳の時代だと言われております。わたしはあとどれぐらいこういった学問がやれるかわかりませんが、大阪大学は生命科学の分野で方々にライフサイエンスセンターなどを作って一生態命やっております。それは非常に大事なことでありますけれども、21世紀に向けて精神科学をやらないといけません。こういったときには、耳鼻咽喉科、あるいは眼科のような感覚という面から、精神科学に進んで行ったらいいのではないかと平素考えている所でございます。

御清聴どうもありがとうございました。

(抄録)

文化勲章に 森繁久弥さん

(六稜 45期)



(1991. 10. 25
朝日新聞夕刊から転載)

80年も生きて、なお、我が心の底にかそかに宿る思い出は中学生の頃だ。

その母校が百二十年を数える。

忘れられない友も大半は逝き、年をとればいかにもわびしい毎日だが、そんな中でキラリと光る青春のかんばせ、とでも云おうか。私はその得がたい追慕に老の身を忘れるのだ。

どういふものだろう。叱った先生ばかりが懐しい。ぶっ飛ばされて鼻血を出しながら謝らなかった私は、卒業の時に仕返ししてやろうとひそかに鼻血をふいたが、それもこれも、どこかへ吹っこんでたゞ懐しい思い出だけが残る。叱らなかった先生は殆んどおぼえていない。叱った先生は克明におぼえている。西陽の射す教室に一人残されて、私は遂に泣いて両手をついて先生に謝った。顔をあげれば涙にうるんだ目に、先生も泣いているのを見たのだ。

西陽も落ちて教員室で、先生の御馳走してくれた素うどんが又涙の出る程美味かった。爾来わたしはうどん屋でも素うどん以外はたべなかった。

そのうどんの残りつゆの上に先生の顔が浮いてくる。

あ、その先生方も殆んどの方が冥府へ先き立たれた。懐しくも涙のうるむ母校、北野中学よ。

森繁久弥さん
北野中学

七十八歳
森繁久弥
佐藤

創立120周年記念展示「六稜会展」のお知らせ

北野高校創立120周年記念事業の一環として、卒業生の芸術作品を中心とした展覧会「六稜会展」を企画しています。北野は佐伯祐三、手塚治虫をはじめとして数々の芸術家を輩出していますが、学校外の展示会場を利用した展覧会は、創立80周年の六稜会展(於、そごう百貨店)以来、30年ぶりになります。

会場：ナビオ美術館 会期：平成5年10月(5日間)

内容：美術、工芸、デザイン、建築、書、その他

企画・運営：六稜会展実行委員会

六稜会展実行委員会からのお願い

六稜会展実行委員会が組織され、準備を進めています。現在、六稜会展実行委員会では、下記の情報を求めています。

*芸術方面でご活躍の卒業生

*作品や資料をお持ちの方

*六稜会展のスタッフとして協力していただける人材

連絡先：北野高校 美術科 内藤伸彦

会 務 報 告

昨年度総会 (11/2) 以降

常任理事会 (1991. 12. 2 於: 校長室)

1. 91年度総会の反省
2. 創立120周年記念事業について
 - ・一般公募案及び校内案の検討
 - ・運営組織の検討
3. 新常任理事の補充
 - ・溝脇常任理事の後任として、原田彰氏(65期)に委嘱
4. 校舎改築について (校長より説明)
全面改築との府教委の方針決定
H5基本設計、H6実施設計、H7着工
常任理事会 (1992. 1. 25 於: 校長室)

1. 120周年記念事業について
 - ・実行委員会組織の検討及び決定
 - ・記念事業、記念行事の概要及び予算案
 - ・募金要項の検討及び決定
2. 平成4年度会計計画
3. 部・同好会の大会出場激励金規定の新設
(本誌「母校の窓」参照)

臨時理事会 (1992. 2. 14 於: 清文社)

120周年記念事業の概要提案・質疑

常任理事会 (1992. 4. 20 於: 清文社)

1. 平成4年度総会について
11月8日(日)1時
会場 北野高校 講堂・テイルーム
卓話者 脇田修氏 (62期 大阪大学文学部教授)
企画 恩師の先生方によるミニ授業

2. 120周年記念行事について
記念音楽会・記念講演などについての検討

3. 募金について
7月上旬趣意書発送

4. 会計報告

H3年度決算報告・H4年度予算案審議
定例理事会 (1992. 5. 22 於: 北野高校)

1. 平成3年度決算報告・平成4年度予算案審議
2. 平成4年度総会について
常任理事会の案を提示、検討
3. 120周年記念事業案の提示及び討議
4. 校舎改築問題
5. 新常任理事 神宅寿昭氏 (67期) 承認
常任理事会 (1992. 6. 10 於: 校長室)

120周年記念事業

・運営組織の見直し

・記念講演の講師

森 毅氏 (58期 京都大学名誉教授)

・記念展「六稜会展」について提案・討議

H5年10月 於: ナビオ美術館

・募金趣意書の最終検討

・記念名簿の発行準備日程について

第1回記念事業実行委員会兼理事会

(1992. 7. 18 於: 北野高校)

1. 120周年実行委員会の組織・各理事の担当について
2. 六稜会展について (120周年記念展覧会)
3. 記念名簿の掲載広告の募集・掲載料について
4. 事務局へのパソコン・ファックスの導入について
5. その他

事務局から

パソコン・ファックスが導入されました。

今まで住所変更など手書きで台帳に書き入れておりましたが、今後はパソコンに打ち込むことにより、凸版のデータ変更が早く楽になりました。

いままで、電話をしても話中が多いとの御苦情をいただいておりますが、電話を一台増設、さらに留守番機能もつけましたので、いくらかは対応できるようになりました。どうぞご利用下さい。

今まで学校事務室のファックスを使っておりましたが、事務局室専用ファックスをつけました。あわせてご利用下さい。

事務局直通電話 06-306-0374

06-306-1334

直通ファックス 06-306-1335

住所等名簿の変更をフロッピーでも受け付けます。

上記のように事務局でパソコン導入しましたので、ワープロ、パソコンをお持ちの方は変更データを、フロッピーでお送りください。これにより事務合理化促進につなげたいと思います。

メディアはサイズは3.5インチ、5インチ、容量は2HD(1.2M)、2DD(640M、720M)どちらでも結構です。原稿はワープロ、エディタ、データベース等適当なソフトで入力していただいて結構ですが、フロッピーには必ずMS-DOSのテキストファイルの形で保存してお送りください。

会 計

平成3年度 六校同窓会 一般会計報告

科 目	3年度予算	3年度決算	備 考
収入の部			
1. 前年度繰越金	961,290	961,290	
2. 入会金収入	1,810,000	1,766,000	
3. 年会費収入	9,000,000	8,830,500	1766人× 1000円 4415.25人 ×2000円 186.35人 ×4000円
4. 臨時会費収入	1,000,000	745,000	
5. 寄付金収入	10,000	16,000	
6. 利息収入	20,000	17,146	
収入合計	12,801,290	12,335,936	
支出の部			
(1) 運営費	5,730,000	5,483,584	
1. 人件費	1,300,000	1,300,000	超過分子費 費より支出
2. 旅費・交通費	300,000	298,000	
3. 通信費	150,000	133,914	
4. 印刷・事務用品費	80,000	45,980	
5. 会議費	400,000	400,000	超過分子費 費より支出
6. 總會費	2,100,000	2,088,565	
7. 慶弔費	1,000,000	862,575	
8. 雑費	400,000	354,200	
(2) 会報発行費	4,560,000	4,315,714	
1. 編集費	60,000	60,000	超過分子費 費より支出
2. 印刷費	3,000,000	2,786,050	
3. 発送費	1,500,000	1,469,664	
(3) 予備費	1,011,290	1,309,617	
(4) 他会計へ支出	1,500,000	500,000	
1. 基金特別会計	500,000	500,000	
2. 名簿特別会計	1,000,000	0	
支出合計	12,801,290	11,608,915	
次年度繰越金	0	727,021	

※ 予備費

内訳 (1)-1人件費 120,000円、(1)-5会議費 709,000円、

(2)-1編集費 30,000円、120周年記念事業特別会計へ200,000円

全国大会出場援助金 250,000円

報 告

平成3年度 六校同窓会名簿特別会計報告

科 目	予 算	決 算
収入の部		
1. 前年度繰越金	1,655,172	1,655,172
2. 名簿売上収入	100,000	128,000
3. 利息収入	30,000	41,138
4. 雑収入	0	27,646
5. 一般会計より受入	1,000,000	0
収入合計	2,785,172	1,851,956
支出の部		
1. 発送費	10,000	9,000
2. 雑費	1,000	1,080
3. 更新費	1,200,000	1,032,470
4. 予備費	1,574,172	0
支出合計	2,785,172	1,042,550
次年度繰越金	0	809,406

※ 名簿在庫状況、平成2年度残87冊、平成3年度売上32冊、
寄贈7冊、平成3年度残48冊。

平成3年度 六校同窓会基金会計

科 目	決 算	備 考
収入の部		
1. 前年度繰越金	67,367,214	
2. 利息収入	4,232,121	一大和銀行金銭信託
3. 新規積立金	500,000	一郵便局定期預金
収入合計	72,099,335	
支出の部		
1. 120周年記念事業特別会計へ	3,000,000	
支出合計	3,000,000	
次年度繰越金	69,099,335	大和銀行金銭信託、郵便局定期預金

平成3年度 六校同窓会120周年記念事業特別会計

科 目	決 算	備 考
収入の部		
1. 一般会計より借入れ	200,000	
2. 基金会計より借入れ	3,000,000	
収入合計	3,200,000	
支出の部		
1. 120周年記念事業準備金	200,000	記念書庫会実行委員会預け 当代会費一括支払 い
2. 校歌・応援歌テープマスター テープ制作費	3,000,000	
支出合計	3,200,000	
次年度繰越金	0	

以上の通り平成3年度六校同窓会計報告をいたします。

平成4年4月10日

六校同窓会長 滝 池 肇 一

本会計の正確であることを認めます。

平成4年4月10日

六校同窓会監事 滝 井 尚 三

岡 新 田 圭 兒

東京六校会第35回総会報告

6月12日(金)日本工業倶楽部に於て開催された。

(会場の都合により昨年より第二金曜日に変更)

岩木幹事(63期)の司会で始まり、河崎東京六校会会長(49期)の叙勲の紹介では大きな拍手がわいた。肥塚教頭(72期)より母校の報告を聞き「北野健在なり!」を喜んだ後、奥村康日本免疫学会会長(73期)の老化ガン・エイズをテーマにした講演では、パーティー会場での講師のもてかたを見ると、皆さん相当興味を持たれたのではないか。

懇親会では各テーブル間の交流も活発に行われていたから総会の持つ縦のつながりの意義も充分達せられたと思う。

盛り上がった後、福引(73期景品提供)、新入会員20数名が紹介され、次期学年幹事74期代表深山氏に引継がれた。

最後に40期～104期迄が肩を組んで元気に校歌、応援歌を歌い最高潮の内に解散。

余韻醒めやらぬ中、二次会に向われた方が多かった。校歌は良かったが、応援歌は二つとも、歌った事がないという若い人が多かった。若い人も全員入れ、北野を謳歌できる学生歌、応援歌、逍遙歌等を是非制定してほしい。

最後に協力いただいた73期生、特に女性陣にお礼を申し上げます。
竹村(康)二郎 (73期)

北野教後史

題字 泉 佛二元校長

— 連載第15回 —

我が心のふるさと 北野音楽部

野口 藤三郎

(北中53回生)

一、
昨年(平成3年)の春、母校の北中(現北野高校)の肥塚教頭先生から呼び出しをうけた。

「何事だろう？」

と、心配しながら、恐る恐る母校に出頭した。

請じ入れられたのは「校長室」。益々もって、おっかなびっくりである。

元来、校長室など、生徒にとっては縁のない場所、普通は近づかない。

昔は、そこには「御真影」が奉安されていた……。

いわば、神聖不可侵の場所であり、殊に我々のような出来の悪い生徒には、むしろ恐ろしいような場所でさえあった。

あの、黒い漆塗りのドアの前を通るときは、足音をひそめて通り抜けたものである。

その「校長室」に、教頭先生は校長先生とお二人で待ちうけておられた。

型通りの初対面の挨拶のち、肥塚教頭が、

「先輩！」

私は昭和15年卒の53回生なので、これでも昭和35年卒の肥塚教頭には先輩にあたる。

「実は、再来年の平成5年は、北野の創立120周年にあたります。」

小生は無言。肥塚教頭が言葉を継ぐ。

「そこで、その120周年の記念行事として〈音楽祭〉をやりたいのですが……。」

との言葉である。

私の胸は騒いで来た。

憶いが、20年前の100周年記念祭、30年前の創立80周年記念祭にさかのぼる……。

30年前。あのときは曾根亮一君(昭和27年卒、大阪音大教授)のフリート・ソロで、ピゼーの組曲「アルルの女」をやった。

20年前。100周年のときは、ベトオヴエンの「エグモント序曲」と、ヘンデルの「水上の音楽」をやったっけ！

思い出を噛みしめている所に、肥塚教頭の声がかぶさった。

「野口先輩。現在、北野高校のオーケストラ部と、コーラス部は、部員総数100名に達し、活発に活動し北野の文化活動の誇りであることは、自他共に許しているところです。」

肥塚教頭の言葉はつづく……。

「私の希望を申しあげれば、平成5年の120周年には是非ともベトオヴエンの〈第九交響曲・合唱〉をやって戴きたいのですが、如何なものでしょうか。」

「えっ……？？」

私の頭上に爆弾が炸裂した。イカン！ やっぱり校長室は鬼門だ。えらい所へ来たもんだ。

陪席されている音楽担当の佐々木先生も、呆れたような顔付をしておられる。

傍らの足立校長は、静かに微笑みをうかべながら、頷ぎおられた。

「確かにうけたまわりました……。」

校長、教頭、音楽担任の3人の先生に返事をして、私は同伴した北澤恵一君(昭和29年卒、六稜楽友会・副会長)と校門を辞した。

二、

その夜……。

私と姪沼進・楽友会副会長(大阪府医師会交響楽団の創立者・指揮者)と前記北澤恵一君の3人で鳩首協議をした。

「えらいことですね。」

「しかし、ヤラなあきまへんで。」

「ふーむ。やって見まひよか？」

私には確信がなかった。

だが、創立80年祭で「アルルの女」をやったとき、90周年には、ベトオヴエンの「第五交響曲・運命」を、100周年には同じく「第九交響曲・合唱」をやろうと決議している。

野口・姪沼・北澤は、家近正直(昭和27年卒)と4人で直ちに準備に入った。

ベトオヴエンの「第九交響曲」は、100名の交響管絃楽団、200名の混声合唱団を必要とする大曲中の大曲である。演奏時間70分。

北野の音楽部のO.B.、O.G.で組織する「六稜楽友会」(オーケストラ)と「稜声会」(コーラス)は、在籍会員の総計約1000名！

とは言っても、学生も、社会人も、ともに日本全国、否、大袈紗にいえば世界各地に散らばっている。

この人々を、特定の日時に、特定の場所へ集めなければならぬ。

「母校の為に！」「音楽が何より好き」という大義名分があるとは言いがたながら、「第九」となれば、オーケストラ、コーラスは夫々別個に練習を重ね、しかも或る時期からは合同して、最低でも10回以上の総合練習が必要である。ソリスト(独唱者)の問題もある。

練習場所を確保するだけでも大変な事だ。しかも人数は総計300名！

熟考と準備に時を重ねること8箇月。学校当局に対して、「承知いたしました。ご安心下さい。」と返事したのは、平成4年1月2日だった。

三、

母校北野に音楽部が出来たのは昭和6年のことである。

それも、独立した「部」としてではなく、学芸部の一部門の同好クラブとしてであった。そして、オーケストラ(管絃楽団)としての形がスタートしたのは、昭和9年のことであった。

初代指揮者は今村忠一氏(昭和10年卒)。

その一級下には、極めて優秀な立派な先輩が集まっていた。

ピッコロの松垣建三、クラリネットの黒田信也、ホルンの吉村淳、トラムベットの竹内俊郎、トロンボンの戸咲金三、ヴァイオリンの飯島澄、深尾幸雄、馬澄竜一、ヴィオラの須古新、セロの永野博章の各先輩たちであった。(悲しいことに、殆んどの方が故人)

その下に、名取康(T.B.) 佐藤捨己、吉川清三、島田の先輩が居た。

そこへ新入生の私と一緒に、森信重幸、伊藤順三、田村芳朗、高橋達夫が参加した。(この音楽部に入ったことが、私の一生を運命づけた。)

北野の音楽部は、北野の校風と同様に、極めて“アカデミック”である。

創立のスタートから音楽部は「オーケストラ(管絃楽団)」であり、プラスバンド(吹奏楽団)ではない。

それが私達の最大の(誇り)でもあった。常識的にも、プラスバンド(吹奏楽団)よりも、オーケストラ(管絃楽団)の方が難しく、且、音楽的にもハイレベルとされている。

当時(今でもそうだが)の一般的音楽水準から見て、旧制中学校で“管絃楽団”を創ることは無理であり無茶であるのは当然のことだった。

事実、昭和20年迄の北野のオーケストラは、ワルツとかポピュラーばかりを手掛けて、なかなか本格的な交響曲には手が届かなかった。

僅かにハイドンの「おもちゃの交響楽」と「告別」の2曲だけだった。

そのオーケストラも、日本が敗戦に近づくにつれ、壊滅に瀕する。今はどうであろう。

四、

戦争は終わった。日本のすべてが壊滅、混乱した中に、北野のオーケストラは再生の萌芽を見た。

乏しい物資の中で、着々とオーケストラの再建に血の滲む努力を続けて呉れた水野大輔(昭和20年)、亀沢芳久(全)、若松昭衛、若松和衛、の諸兄には、音楽部の先輩後輩の全員が感謝を捧げるものである。

O.B.も、蛭沼進君が時々後輩の指導に母校の練習に顔を出した。

その後、オーケストラとコーラスは、多少の浮沈はあ

ったものの、隆昌の一途をたどりつゝ、よき人材に引き継がれて現在を迎えている。

「ハイドン」や「モーツァルト」は勿論のこと、交響楽の最高峰の「ベトオヴェン」の交響曲も、第九番の「合唱」を除いて「第一番」から「第八番」までは全部手がけている素晴らしい。

こゝに、今までに演奏した曲目を紹介するには、あまりにも膨大で詳述する紙数はない。音楽部がここまで成長した最大の理由は、オーケストラが生まれて60年、母校120年の歴史の片の年月の、「歴史と伝統」の成果が現在をもたらしたと言えるだろう。正に、ローマは一日にして成らずである。

古くは、作曲の大中寅次、長谷川良夫芸大教授を出した北野は、「プラスバンド」ではなく、完全に「交響管絃楽団」として生まれ育ち、多くの優秀な人材を世に送り出した。

現在、日本の大学のシムフォニー・オーケストラの活動は極めて盛である。

殊に、戦前からの歴史のある「京大」、「阪大」、「慶応」、「関学」、「同志社」、「立命館」等の大学のオーケストラは有名なものだ。

又、巷の市民オーケストラも、各地で良い楽団が組織され活発に活動している。

これらの「大学のオーケストラ」、「市民オーケストラ」の中心となって活躍しているのは、皆、北野のオーケストラやコーラスの出身者であるといっても過言ではない。

この、戦後の混乱期をのりこえ現在の黄金時代へ導いて呉れた各年度の卒業生の諸君の中で、前記の蛭沼、曾根、家近、北澤、若松兄弟の諸君の他に、私の記憶にある次の方々の名前は忘れてはならない。

時川牧夫(S19) 角地正純(S26) 立石大作(S26)
加藤公明(S26) 犬飼一夫(S28) 楠本宝津美(S29)
浦上一衛(S30) 鯨岡俊男(S30) 松永 修(S30)
杉浦和子(S30) 橋本和子(S30) 中院俊子(S31)
奥野哲久(S33) 門 良一(S33) 郡田和彦(S33)
川島啓介(S34) 小原彦也(S36) 嶋田高光(S38)
沢野良夫(S41) 柳父立一(S41) 飯田精三(S42)
大西正倫(S42) 大田正敬(S41) 市川孝一(S43)
豊島和史(S44) 玉上信明(S44) 杉井謙一(S42)
山本 衛(S45) 田中秀康(S46) 杉山敏夫(S47)
金水 敏(S48) 林 和之(S49) 村山公英(S52)
上原 康(S53) 坂口和彦(S53) 森 知史(S55)

コーラスも、その発展と練度に於てオーケストラの域を超えるまで成長し、昭和60年には学校当局からは正式に「部」として承認された。

O.B.としての組織も楽友会から独立して「後声会」が発足したのは昭和40年であったが、コーラス部の正式承認とともにその活動は一気に加速し、上記の田中秀康、林和之の努力で平成3年には箕面のメイプルホールで単独に演奏会を開き、立派な会報を発行するまでに発展している。

これらの若い力を結集して、在校生とともに組織する

「六棧交響楽団」、「六棧混声合唱団」を以て、平成5年の北野創立120周年祭をベトオヴェンの第九交響曲(合唱)で飾ろうとしているのである。

x x x

戦前と戦後の音楽部の楽しいエピソード2題を贈る。

① 「いのししよ、さようなら。」

昭和15年2月12日の午後、北野中学の職員室。

「先生。昨日オーケストラが朝日会館へ出演して、これを貰って来ました。受取って下さい。」

戦前の日本の国家の祝日、「四大節」の一つである紀元節(現在は建国記念日という)に朝日新聞社主催の「紀元2600年奉祝大音楽会」が催され、我が北野中学校管絃楽団が、中学校唯一のオーケストラとして参加した。

この昭和15年という年は、日本歴史の神武天皇の即位から数えて2600年目という事で、国をあげての祝賀行事が繰広げられていた。

オリンピックが東京で行われる予定で、又音楽界に於ても、名指揮者フルトベングラーがベルリンフィルハーモニーを率いて来日すると言われていた。

残念にも、オリンピックとベルリンフィル来日は中止となったが、作曲家のリヒアルト・シュトラウスが「祝典序曲」を捧げた。そして、我が北野中学校管絃楽団が朝日会館に出演し、盛大な拍手をうけた。

興奮の中に演奏を終って帰ってきたとき、朝日新聞社・社会事業団から、出演謝礼として金一封を頂いた。

私達は「出演料」が出るということは、全く考えてもいなかった事である。

中味は金10円也。(いのしし一枚)

俗語で10円紙幣のことを「いのしし」という。それは、10円紙幣の図柄が和氣清麻呂の肖像と清麻呂を祭る護王神社だからだった。護王神社の拝殿の両側には、狛犬のかわりに「いのしし」が鎮座している。

「たったの10円か？」と馬鹿にしてはいけない。当時の10円は平成4年の20万円に相当する。

時の教頭は石崎先生。や、得意気だった私と若林正男君の頭上に雷が落ちた。

「何たる馬鹿者か！ 君達は天下の北中生。その中学生で、しかもアマチュアたる身分を忘れて「金銭」を受取る行為は絶対に許されない。すぐ返して来なさい！」

ペンをかきながら、すこすごと私と若林の2人は朝日新聞社へ返しに行ったが、係員は受取らない。

「困ったな。困ったな………」

2人はジョンボリ歩いて帰る途中、十三大橋の上に差しかかった。

「若林クン。この10円、ほかそか？」

「うん。そうしよ。ほかそやノ」

私は10円紙幣の入った紅白の水引きのかかった金封を十三大橋の真中から淀川に捨てて叫んだ。

「いのししクン。さーよーうーなーら——ノ」

② 「先生。早よかにんしてーなア」

「コラッノ、そこに居るのは難だッ。顔を見せろノ」生徒指導部長・泉梯二先生(後に校長)のドナリ声に

音楽部の部室に泊りこんでいた豊島和史、三谷他の数名は飛びあがった。そして逃げた。

が、泉先生の追跡は厳しい。とうとう、校舎の屋上でつかまった。

取調べの上釈放されて処分が決った。「音楽部、部活動の無期限停止処分」となった。

時は昭和41年6月、文化祭の前夜である。晴れの文化祭音楽会のため、足りない楽器のティムパニーを先輩の活躍している「阪大オーケストラ」に借りに行ったのだが大きな銅釜のようなティムパニーは、一個でもタクシーに乗らない。仕方なく、豊島らの数人で大きな重いティムパニーを2個かついで母校まで歩いて運んだ。

汗だくになって、北野高校まで運び込んだが時刻は深夜となっていた。

この楽器は、「阪大」からの借りものである。万が一、盗難にでも逢えば大変なこととなる。

「仕方ない。用心の為にこゝで寝ようや。」

「今夜は不寝番や。」

これが校則に触れた。しかも、事露見して逃走をするとは尚一層「悪質」である。そして「音楽部・部活動無期限停止処分」となった。

「そら殺生や。明日は文化祭やないか………」

豊島は半泣きになって北沢の所へ走り、北沢は直ちに私の所へ報告に来た。

私は直ちに校長と泉先生に事情を陳述して処分の善処方をお願いする手紙を送った。

泉先生から、直ぐに返事が返って来た。

「音楽部の生徒諸君が、全くの善意と責任感から部室に泊り込まざるを得なかった事情は、よくよく理解いたしております。

併し、校則は校則、処分は処分です。変えることは出来ません。

ただ、音楽部・部活動無期限停止処分と申しましたが、いつかは期限の来ることですし、明日解除しても無期限は無期限です………」

嗚呼！ 偉大なる泉梯二先生の「名言」かな。因みにこの泉梯二校長からの手紙は、今も私の手許にある。

(以上)

のぐち とうざぶろう氏 略歴

大正10年(1921年)大阪市に生まれる。1934年北野中学校入学、1945年同志社大学卒業。両校を通じて音楽部に在籍。その間、1943年学徒出陣で海軍封港学校に入校。海軍時代は音楽が活かされ、音響兵器、ソナーではNo.1の權威だった。特殊潜航艇・艇長で1945年復員。戦後、高校の教師を経て、1947年音楽界へ。1952年大編成のリズム・エアーズ及びロイヤルポップスを率いて各地で活躍、1970年東南アジア演奏旅行で好評を博する。1982~1991年まで木曾カントリークラブ役員。現在著述に専念。その間、1958年故鈴木清一郎先生(カレヤン)の謝恩パーティに奉仕出演。つづいて北野創立80周年、100周年記念行事には、リズム・エアーズオーケストラを率いて式典に錦上花を添えた。現、六棧楽友会・会長。

あくなき好奇心の高峰

川島武宜氏を悼む

東京大教授・民法 平井 宜雄



故川島武宜氏(39期)

「やあしばらく。君と話したいことがある。来週の水曜日はどう？」——明晰この上ない声が受話器の向こうから凛々と響いてくる。その声の主、川島武宜先生との刺激に満ちた時間は、日比谷の事務所の隣のビルにある先生お気に入りの料亭の小さな和室で、この数年間の習わしとなっていた。昼食をはさんでの数十分、はしの動きも先生の話題とともに途切れることはなかった。——「僕は今こういう問題を考え続けている。それについて論じた文献はあるか?」、「この問題についての従来の学説の発想そのものを根本的に考え直してみる必要がある。君の意見は?」。もちろん、このような話題を、弁護士としての先生の仕事が必要としていたわけではない。先生は、ただ周囲の世界に法律家の眼に映る謎を発見し、それを解きたいと考えておられただけである。つまり先生は、80歳を超えてなお、単純に「世界をもっと知りたい」と望んでおられたのである。

実に、この「世界をもっと知りたい」衝動、つまりあくなき知的な好奇心こそ、去る5月21日に訪れた突然の死によって終わるまでの60年間、先生をひたすら研究へと駆り立てた原動力であり、戦後の法律学に決定的な影響を与えた数々の業績をもたらした源泉にほかならない。たとえば、われわれは、戦前の日本社会が全体としてどのような構造であったかを(「日本社会の家族的構成」)、権利や義務が単に紙の上の存在ではなく社会的基礎を持つことを(「所有権法の理論」)、法の解釈や法律学がどのような性質の作業であり学問であるのかを(「科学としての法律学」)、先生によってはじめて教えられたのである。

これらの膨大な業績は、全11巻から成る「川島武宜著作集」(岩波書店刊)にまとめられ、後進の研究者の目指すべき峻険の高峰としてそびえ立っている。しかし、その著作集を自ら編集し解題を書かれるという苦勞に満ちた仕事を終えられた瞬間から、おそらく先生は不満を覚え、おさえがたい知的な好奇心の導くままに新たな世界の探求を開始されたのに違いない。その探求の成果のすべてを知ることは、われわれにとってもはや不可能となった。だが、知識の世界が限りないものであることと、その限りない世界の探求がただちにはわかえって自らの無知を教えること、この二つが研究者にとっていかに重要であるかを、先生の生涯は示している。先生の築かれた高峰の幾つかは、あるいは今後乗り越えられることがあるかもしれない。しかし、先生が身をもって示したこの二つは、永遠の価値をもって生き続けるであろうと信じているのである。

これからは、私の研究室の電話のベルが日に何回鳴ろうとも、事務所の電話番号を何回まわそうとも、その張りのある声が受話器に響く時は、二度と再び来ることはない。それを思うにつけ、私の心はただ慟哭するだけである。(続完新聞 1992. 5. 26 夕刊から転載)

咲き誇る桜守の丹精

「笹部桜」東京池上本門寺で初開花



故笹部新太郎氏(17期)

「通り抜け」で有名な大蔵省造幣局(大阪市北区)のヤエザクラを育て、水上勉氏の小説「桜守」の主人公のモデルになったサクラ研究家、笹部新太郎さん(1887-1978年)が育てた新種の「笹部桜」が、ソメイヨシノの名所、東京都大田区の池上本門寺境内で初めてかれんな花を咲かせた。

笹部さんは約30年前、神戸市の自宅の庭に自生した山桜に似た二本のサクラに愛情を注いだ。つばみは紅色、花は淡紅色。笹部さんは「このサクラこそ、本来のサクラの美」と主張。85年、カスミザクラとオオシマザクラ系のサクラが交配してできた新種は「笹部桜」と名付けられた。

笹部さんの門下生、久野友博氏(54期)=兵庫県西宮市一は、自宅の庭(約2300平方メートル)で約千本の笹部桜を育てる一方、各地の公園や造幣局に笹部桜を寄贈。

「箱根を越えて、笹部桜をソメイヨシノの本場、東京に送り込もう」と、候補地を探したところ、池上本門寺から申し出があった。久野さんの庭から高さ5メートルに生長した30本を選び、先月上旬、同寺へ移植した。

花は今、三分咲き。枝ぶりはまだ弱々しいが、同寺も「早く大木に生長して、大きく花咲くのが見たい」と期待している。(毎日新聞 1992. 4. 10 夕刊から転載)

剣友の集い

昭和13~17尚武の時代、私達は天下の北中健児の気概と気位を文武の道の中心に置き毎日絶対に1時間のみの練習を積み重ねて遂に近隣の武道有名校を抑えて優勝旗を次々に持ち帰りました。其の後戦中戦後を通じて私達を今日迄支えて呉れたものは、この気概、この気位であると信じています。これこそ学校剣道の在り方、指導の真髄を以て、私達54期・55期・56期・57期・58期・59期生をご指導いただいた井上正孝先生のご尽力の賜物と深く感謝しています。例年井上先生を囲んで54期・55期・56期・57期の剣道部員有志が集っていますが、この機会に六種剣道部OBの交歓の場に発展させたく思い始めました。どうか志のある方は、下記へ近い人達お誘い合わせの上ご連絡下さい。

〒639-21 奈良県北葛城郡新庄町正田96-39

青木 博(56期)

随想

題字 阿部俊一先生

「あの一瞬!!」

—— 昭和24年春 選抜高校野球 優勝戦 ——

長谷川圭市 (62期)



平成3年12月5日
第一回ゴルフ天高戦で
優勝カップを手にする
六校チームキャプテン
長谷川圭市君

「あの一瞬」空の二塁ベースが見えた。私はすばやく、しかし力一杯そのベース目がけて投げた。市石がかけ寄って塁上、胸の前で捕球する。二塁市石が振り向くと、丁度三塁走者が、ホームプレートを走り抜けるところだった。

延長十回の裏、一死満塁で、左中間のライナー!! 三塁走者がタッチアップして、ホームベースを踏んだのを見た野瀬アナウンサーは「アシヤ高校優勝!!」と叫んだ。隣に住む北野の先輩尾崎さんはラジオのスイッチを切ってしまった。有本投手をはじめ芦屋高校のナインは「カッター」とばかり、ホームプレート前にかけて出し、試合終了のあいさつの為に並びかけた。「浜崎主審に、守備につくようにと追いかえされた時、何が起こったのか、まだわからなかった」と後に語っている。

舞台は甲子園球場。昭和24年の4月6日、春の選抜高校野球大会の決勝戦。北野対芦屋延長十回のうら、得点は4対4、一死満塁で、芦屋サヨナラのチャンス! バッター石田君の打球は左中間のライナー、三塁走者田中君がタッチアップして、ホームをふめば!! アナウンサーも大観衆も三塁走者を見ていた。

しかし私たち野手は清水監督の「球を受けてから投げる先を考えるな! どこへ投げるか頭に入れて守つとかなアカンゾ」という指導通り、あらゆるケースを考えて守る普段の訓練通り。即ち、この場合、(1) レフトヘゴロが来たらゲームセット(負け)、(2) フライが来たら、バックホーム、(3) ライナーが来たら、セカンドゲッツとか、バックホーム、と決めて守っている。そこへ左中間のライナーノ追い付けた、右胸の前まで走り込んで捕球することが出来た。すばやく投球動作に入りながら、(3)「セカンドゲッツとか、バックホームのケースだ」幸い、左中間からセカンドとホームは同じ方向。

カラの二塁ベースが見える。この場合カラというのは、私の投球が二塁にとどくより早く捕れる範囲内に二塁走者がいないという感覚。走者がどこにいるか、さがしていたのでは間に合わない。カラのベースを見た私は矢のような球を送った。清水監督は見ておられた。「二塁塁審の久保田さんが右手を高々とあげて、二塁ランナーのアウトを宣告してくれた」「それで浜崎球審にも、それが三塁走者のホームインよりも早いのがよく見えたんやろな、じっとホームインを見送ってやった」

こうして試合は4対4の同点のまま、十回を終り、十二回、市村四球、広瀬のセンター前ヒットがイレギュラしたのか、野手後送球は転々外野の驛にころがる間に市村一挙生還、すかさず広瀬と長谷川のスクイズが決って二点を取り、遂に6対4で優勝となる。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
北野	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	0	2	6
芦屋	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	4

「カラのベースに投げて大丈夫だったのか?」と質問して下さる方があれば、そこにこそ、私が40年経った今、皆さんにぜひ、お伝えしておきたいことがある。

私はカラのベースに力一杯に球を投げて、何の不安も感じなかった。

(清水監督とその指導法)

清水監督は史上最年少の甲子園優勝監督である(23才)。

① 鬼監督であった。猛ノック! しかし名ノッカー。強い球、緩い球、曲る球、いろんな球を丁度とれるかそれないかぎりぎりのところにコントロールよく打つことが出来たので、猛ノックではあってもやたらに数ばかり多い、ムダの多い練習とはちがって、我々の守備範囲は面白いように拡がっていった。

② 理をはっきりと説いた。彼の策通りに全員で追いつめてゆくとどんなすごい投手でも攻め落とすことが出来るので不思議だったが、我々は彼の指導に絶大の信頼をおいていた。例えば大鉄工業に網投手という大阪一の左腕投手がいた。「一回目はよく見て来い」の指示通りに、うちの四番バッター増田さんは、一回目の打席で、その鋭く曲るインドロップをミットに入るまで、じっと見つめて、三球三振をして帰って来た。そして次の打席から彼は恐れられていた網投手のインドロを業さんと共にガンガンと打ちまくって勝ったのであった。「3ストライク目まで、見て来やがった」と清水さんは苦笑いをしておられたが、選手の監督に対する信頼の度がわかってもらえると思う。

③ 鬼監督であったが、北野らしい個性の強い変わりものの集まりである我々の自主性を大切に、最大限の力を引き出してゆかれた。

この③の我々部員が自主的にあみ出した練習方法のいろいろの一つが、決勝戦で実を結ぶ。部員は皆、猛練習に耐えるファイトで猛勉強もした（このナインは同大、関学、慶応、神大、京大、東大へとそれぞれ進学している）。それで短い練習時間で効果を上げる為の工夫の一つとして、フリーバッティングの時に、カー杯守備練習もした。(1) ノックとちがう生きた球を、(2) 投手の投げたコース、バッターのスイングに合わせて早くスタートを切る。(3) 捕った球を実戦的に全力処理する。(4) ランナーも実戦走塁の練習をする。その為に各ポジションに二人以上ついていて、塁のカバーに入っても、後は次の人が、次の打球に備える。一球一球、内野も外野も自分のところに打球が来なくても、全力でスタートを切る。外野へ球がとぶと、アウトカウントとランナーの位置に応じて、外野手は、一塁、二塁、三塁、ホームへ全力投球する。

この練習が、幸運にも全国大会の決勝戦のドタン場で実を結び、球史に残るファインプレーとして、未だに春が来る度に回顧され、大阪府審判員講習会では、ケーススタディの一例として取り上げられているのであるが、当の本人にとってはファインプレーでもなんでもなかったのである。まして新聞や本にあやまり語られているように球を受けてからあの一瞬に判断するような頭脳的プレーは清水監督によって厳しく禁じられていたのである。たゞこゝで、私が皆さんに知っていただきたいのは、内野手諸君が、このハードな退屈な練習を毎日繰り返してしてくれた事である。市石、市村、政井、東海林、内藤、竹本、岸本の諸君に感謝と尊敬の念を表明させていただきたい。外野手は自分のところにどんで来た球を全力で処理するのは当然でしかも面白い、張合いのある練習である。ところが内野手諸君にとっては、外野へ球がとぶ度に、全力疾走で塁にかけこむ（特に二塁とショートは遠い）という単調な重労働である。

こゝで、もう一度想起して下さい。私は左中間で球に追いつくや、小さいモーションで、カー杯、カラのベースに球を投げて平気だったということ。野手が塁に入るのがおくれて、それを待ってから投げてセーフになる例は、度々みられるところである。もし市石が塁に入ってくるのをみとどけてから、投げていたら、北野の優勝はなかったかもしれない。三塁走者が先にホームベースを駆けぬけてしまったかもしれない。

こゝでもう一つ、芦屋高校の名譽の為につけ加えておかなければならないことがある。それは、あの不運な二塁走者の練習を、我々もしたことがなかったということである。上記の実戦的練習方法で、二塁走者の練習もあらゆるケースを想定して、打球を見た瞬間にスタートを切る練習は充分できていた。しかし、後攻でサヨナラ勝ちのチャンスの三塁走者のいる時の、用のない二塁走者の練習はさすがの我々もやったことがなかった。得点しなければならぬ走者の練習は繰り返したが、死なないように気をつけているだけの二塁走者の練習はしたことがない。このことに気がついたのは10年位経ってからで、

今さらのように、我々の幸運、芦屋の不運に心が熱くなったものだった。

不運と書いたが、実は人生そんなに単純なものではない。芦屋高校では、あの時のくやしさが部に語り伝えられ、以後の猛練習となり、後の全国制覇におそらく、お役に立っているかもしれない。

又、当の二塁走者木下氏の事が、今年の春、毎日新聞の選抜特集に取り上げられた。彼はこの失敗を忘れず、最後まで油断なく念を押すことを旨として、海外取引の仕事に成功しておられるとの事。

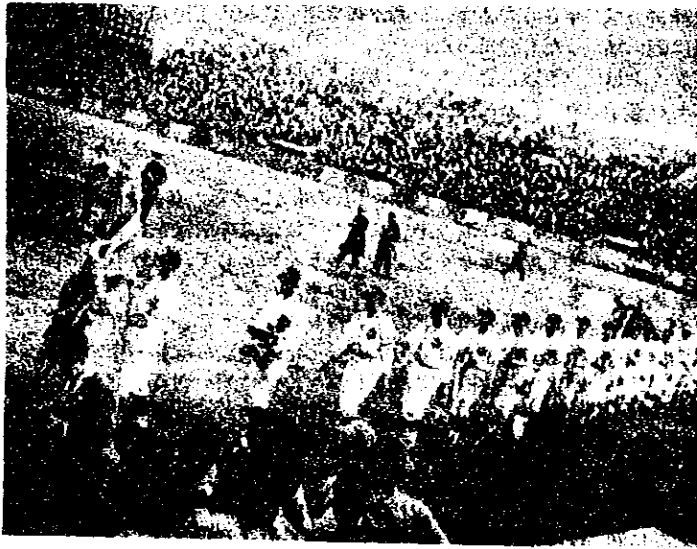
同じ私と市石君のこの得意のプレーが、その夏の大阪予戦、対大鉄戦で敗因となった。大鉄の攻撃、ランナー一塁で三遊間の安打、レフトの私は思い切り前進して、このゴロを取り、二塁ベースの右角めがけて（ベースの上ではなく、ベースの右すみの地上一尺位、安打で一塁からオーバーラインしてくる走者の逆についてタッチアウトしやすいポイント）すばやくカー杯の投球。快心の投球ができ、「やったぞ!!」と思った次の瞬間、塁審が二塁ベースの前に走りこんできて、その足に私の投球が当たり、球は右中間方向へコロコロ、ランナーは三進し、結局3-2で負け試合となった。審判員はこの場合、石ころと同じで、審判員に球が当たっても、そのまゝインプレーで何の救済処置もないのである。高校生活最後の試合で、積み重ねた練習がこんな結果に終って、試合に負けてしまった悲しみよりも、残念で腹が立って仕方がなかった。しかし年が経つに従って、天は公平だ、よくしたものだと思ひに思うようになった。

（あの頃の北野の野球部となつかしい皆さんのことども）

「バカヤローかえれ!!」優勝後、サインを求めて我々の合宿に群がってきた女子学生たちを、キャプテン梅田君が一喝して追い返したと伝えられている。我々は梅田君の野蛮な行為を恨んだものである。

しかし、最近、梅田君にじかにたゞしたところ「そんな失礼なこととはしていない。学生野球の品位のことを説明して、丁寧にいわびし、おことわりした」ということであつた。

（梅田君）は一くせも二くせもある私の強い我々を一つにまとめて盛り上げた名キャプテンである。23年春、甲子園の入場行進の最中「内藤はん足並ちごてますがなノ」「ちがう、前の奴がまちごうとるわん」という具合（彼は音曲の第一拍に左足を合せていたのに前の者たちが皆ちがっていたそう）(曲はカネのなる丘)。善段は遊びも趣味もてんでバラバラで勝手なことをしたり言ったりしているのだが、こと野球に関する限り、一丸となって「チームの為なら」他のことは後まわしにして何の疑いももたなかった。このキャプテン梅田君も、我々ゲッツコンビと共に優秀選手賞を受けたが、彼は内野手の投球を一発も後へそらさなかった堅守と三塁線を破る二塁打などが認められたのであろう。この大会中に内野手が何本が一塁に向ってワンバウンドを投げたのを皆胸でとめて、しのいだのである。何しろ球など恐れぬ豪の者である。



昭和24年春の大会 優勝行進する六稜ナイン

(当時の主な戦績)	(夏の大阪予戦)
(甲子園)	21年夏(第28回大会)
23年春(第20回大会)	8-0 大鉄工
5-3 金沢三中	9-4 第七商
3-2 神戸二中	2-3 日新
(準決勝) 1-4 京都一商	浪商 3-2 日新
	(優勝) (浪商は全国大会優勝)
24年春(第21回大会)	(平古場投手)
10-1 日川	22年夏
6-3 桐蔭	5-2 千里山中
3-2 岐阜商	12-0 汎愛中
(優勝) 6-4 芦屋	(5回戦) 6-7 府立園芸
25年春(第22回大会)	23年夏
3-2 瑞穂	5-0 今宮工
7-5 明治	2-0 都島
3-7 芥山(優勝)	5-0 浪速工
27年春(第24回大会)	3-2 住吉
0-5 鳴門(準優勝)	3-0 大鉄(網投手)
	(決勝戦) 1-2 天王寺
	24年夏(第30回大会)
	1-0 城東
	3-0 生野
	2-3 大鉄(網投手)

かって和歌山遠征で、かの有名な和申、蔽中投手と対戦した時、夕陽と重なって見えない一塁牽制球を逃げずに頸で受け止めたあのシーンは、チーム内で度々想い出して笑いながらも、尊敬の念を交えて語り伝えられている。それから、彼の初安打はホームランである(藤井寺第2球場、対園芸、辻投手。当時、快速球と大きなアウトドでならした)。

(広瀬君) ついでに、この和歌山遠征で、名捕手広瀬が思いがけないことをした。名というのは、夏の大阪予戦、大鉄との決戦、2アウト1-3塁で二盗してきた一塁走者を敢然と二塁で刺した男であるが、打者としても力みのない美しいスイングで好打を放ち、ある日練習中突然レフトフェンスを軽々と越す長打を連発し、貴重なボールをダブル川に次々と放り込み、我々をあわてさせた。糸のきれたボールを授業中に、二つ三つぬうのが日課となっていた時代の事だ。その好打の広瀬が「バランスのよいバットみつけてきた」といって和歌山遠征の朝かかってきたのが、なんと中をくりぬいて、先にフクノしてある軟式のバット。これで増田さん、水谷さんは、和申からホームランを打った。そして勝った。

「ふかしいもにひかれて」この和歌山遠征の原因がふかしいもであったことを、私は最近梅田君から聞いた。昭和22年頃の事、国民は皆空腹、まして野球にはげむ我々は、ものが食えるなら何でもした時代。ラムネ一本おごるからといわれて、雨の校庭に数分間、服のまゝ立ってズブぬれになった二人(内野手)。今川やきを食わせてやるといわれて、ソースをコップ一杯のんだ奴(これも内野手)。はては冬、外套を着たまゝ、ブルにとびこんだ奴(これは野球部ではないので、何を食べさせてもらったかは知らない)。24年春の優勝祝賀会が清水監督の家であった時(ホテルはもちろん外食堂は一切ない時代)、すき焼の肉が煮えるまでまっていたら、一切れも口に出来な

い。皆赤いうちにきえてしまう。〇〇の如きは、なべに肉を入れるや、すばやくはしで押えて、「これおれのやぞ」という具合。和歌山の中等野球連盟から大阪の野球連盟を通じて遠征招待の話があった時、「ふかしいも」を出しますから、という条件がついていたので、監督、キャプテンは、大いによるこんで受諾したらしい。海草中(後の桐蔭)との試合が終わって、和申との試合を待つ間、増田キャプテンが梅田君にきいてくるように命じた。彼は行って不動の姿勢で「ふかしいもはまだでしょうか?」「今ふかしていますから」「あのそれからバットがわれてしまったので、貸していただけませんか」という使者だった。梅田君が後に慶応の名マネジャーとして困難な時代をきりまわし、今でも友人仲間の為に色々と骨折ってくれ、人望があついても既にこの頃からの苦勞、修養があつたればこそといえるのかもしれない。

(多湖投手) 昭和23年春、高一で甲子園のマウンドをふんでいる人気の少年投手。この年は橋、優勝の年は山本という豪速球投手と組んで、絶妙の投球をした。準決勝戦、岐阜商(前の試合で2ホームランを含む猛打で、優勝候補ナンバーワン)の大男たちを、面白いようにきりきり舞させて、3対2で勝った。しなやかな左腕からくり出されるアウトコースのシュートは、右打者にはストライクとみえて外にそれてゆく程キレがあった。同じコースから内にきれこむカーブと見分けがつかなかったのだろう。多湖君は打者としても、この決勝戦で二度のチャンスに三打点をあげ、後に慶応、鐘紡でも好打者として成功している。

(市村君) 野手の中で一番野球向きの体力と運動神経の持主。関学に進み、関六のリーディングヒッターをとっている。60才になった今でもO.B.野球でピッチャーをしてくれる程の鉄腕をしていた(ホームベースからライトの校舎に投げてぶっつけた)。

(山本投手) 広瀬や楠本が忙しい時に、私がブルペンキャッチャーを買って出たところ、ぐんとホップしてきて球があまり見えない程の快速球。その上、ミットの中の左手のひらが忽ちはれ上った。おそろしくて、私は二度と「受けた」と申し出ることはやめた。甲子園の第一試合(対日川、10-1、完投)に先発する時、清水監督の助言通り、プレーボール直前の投球練習で、わざとバックネットまで暴投して大観衆を湧かせた。全日本高校選抜ナインの三番打者にえらばれた強打者。準々決勝、和歌山桐蔭高校の左腕西村投手(タイガースに入る)の決め球、右打者ヒザ元をえぐる豪速球(直前の打者であった私は、その球を狙っていたのに「ヒザに当る!!」と思わずとびのいて三球見送りの三振)を快打、レフトフェンスを直撃したが、あまり勢いよくはわかえってきたので、三塁でタッチアウト。これは翌年つくられたラッキーゾーンには軽く入っており、「幻の本塁打」と我々は呼んでいる。

(試合は6-3で北野の勝ち)

(広瀬君つづき) 広瀬は、この快勝戦のピンチの時、山本投手に一息入れさせる為にタイムをとり、スパイクのヒモを結び直した。と我々外野手は思っていた。実はホームプレート上に腰をおろし、スパイクをぬぎ、靴下までぬいで、ひっくりかえして払ったことを知ったのは、後の事である。

前年(昭和23年春)の大会出場者中、誰が一番の小兵であるかが問題となった。ライバルは神戸二中の半田三塁手。入場式前に集合した時、橋投手が半田君を呼び寄せ並んでみたところ広瀬の負け。この名捕手広瀬は殆んど敵にスクイズをゆるしたことがない。相手のサインを見破って、投手にウエストさせるのである(逆に我々は、スクイズを見破られた事がない。清水監督が、複雑で明瞭なサインをタイミングよく使いこなしておられた)。決勝戦九回うら2対2の同点に追いつかれてなお一死三塁のピンチ。こゝで多湖から山本に投手交代。芦屋のスクイズを警戒。山本がセンターから呼び寄せられた。体をゆすってマウンドに向かって走る山本の姿の堂々と見えたこと。実は山本は不安のあまり、少しでも時をかせようと、わざとゆっくり走ったのが、我々には大きく見えたのだった。第1球、広瀬が「はずせ」のサイン。アウトハイに外す約束が、投球の一瞬、広瀬の身長のことか山本の頭をかすめたのか、思わず腕がちぢんでアウトローにおさえてしまった。「えたりやおー」と広瀬がこれを難なくキャッチ、三塁走者を扶殺ノ延長戦へともつれこんだ。

(市石君) 何といっても大会中ノーエラーの堅守。進駐軍の赤茶色の大きなグローブを愛用していた。彼の鮮やかなグローブさばきは独特だった。ゴロが彼のグローブに吸い込まれる時の動きは不思議なもので、ひくようなおすような……今でも目に浮かぶ。

打撃でも京大時代、関六でベストテン入りを果たした。下宿でも毎夜、素振りをしてた。これも一寸独特のスイングで、その笑顔と共に思い出せる。

(品川君) スゴイ強肩。三塁手として、胸で打球を止めさえすれば充分一塁はアウト。バッティング投手としておじぎしない球をほれる人材がいることは、ピッチングマシンのない当時では、直接チームの打力につながる必要条件。

先輩の水谷さんと、市村君、二年下の款狭、早矢仕君と恵まれていた。品川は打力でもこのバカ力をタマに見せた。あの我々最後の試合となった大鉄の網投手の球をライナーでセンターオーバーした、低い早い打球のすまじさは今でも覚えている。

(慶留岡(ケルマ)君) 大男だが全く器用ではない。守備では甲子園に来て、まだ早朝に合宿を抜け出して、球場にしのびこみ、内藤さんにノックしてもらっていた程。

(この年ナゼ、合宿に内藤さんがいたのか? 記憶ちがいか?) 打撃では、決勝戦の七回二塁打の多湖を三塁において、ライトフライで、先取点をたき出している。我々の卒業後、四番バッターに成長した。

(マネジャー睦君) 内藤さん、木原さん、岡野君、三川君、三島君。23年春の入場式の前日、入場行進の練習の日、ユニフォームを洗濯した我々は、予備のユニフォームを持っている四、五人を除き、学生服で参加した。主催者が「ユニフォーム着用と指示してあったのに」「あすの入場式の為に洗って干しています」「一着しかもっていないのですか」「はい」「それは失礼致しました」行進はこれでよかったが、記念撮影はさまにならないので、我々ははずされ、北野だけが列が短い。実は一着しか持っていないどころではない。一人一人もらってきたり、借りてきたり寄せ集めで、生地の色が白っぽいものから黄色っぽいもの、中にはフチどりの黒い線の入ったもの(品川)を着て暗れ舞台に出場したのである。

その入場式の前夜、我々がはじめて揃えてもらったのは、(1) 胸の六稜のマーク、(2) 帽子、(3) ストッキングの三つ。これを我々は感激のうちに受取った。(1) これまで六稜のマークは、各自がコンパスと定規で書き、きりぬいたもので、大きさも生地もまちまち。これをはずし、各自、針と糸で揃いの六稜の星を胸にぬいつける。(2) 帽子もマネジャーがナインの頭の大きさをみつくり買ってきてくれたもの。広瀬などは過大評価されていたのか「いくらなんでも大きすぎるわい」とお冠り。何人かは後部を重ねてぬい合せて何とか頭に合わせる。(3) ストッキングはなんと白地に紺の二本線が入っている。「一中やのに、こんなアカンゼ」「大阪中まわってきたけど、この値段では、同じ柄のものが十三人分揃った店は、こゝ一軒しかなかつてん」という次第であったので、マネジャーの皆さんの御苦勞はどんなであったろう。皆さんの顔を思い浮べると、一きわ懐しく、温いものを感じるの、その為だろうか。

(最後に外野の仲間達) あの練習方法を考え出し、日々共に励んできた一番近い仲間達、竹内、川原、赤尾の諸君は今もそろってゴルフの腕前はシングル級と言え、我々外野陣の好打、強打ぶりが御推察頂ける事と思う。

六稜同窓会だより

卒業60周年記念六稜四五会

(昭和7年卒)

北中卒業後60年、我々は激動の時代を各自の歴史を背負いながら今日に至った。しかし現在会員の半数以上、恩師の多数の方が亡くなられたのは寂しい限りである。

総会は平成4年4月23日に行われ、会員26名が出席、恩師水島先生が90歳とはとても見えぬ元気なお姿で御出席くださった。そこで会の第一部は、佐藤英夫君が住職である北区の円頓寺で、亡くなられた恩師32名、同期生137名の追悼法要を行い故人を偲んだ。その後、席を付近の料亭多幸梅に移し宴会に入った。宴会は賑やかで遊芸もあり、出席者一同おおいに元気で、久しぶりに会った人もあるので、話はずみ77才の齢もしばし忘れて、約3時間歓をつくし、最後は我々が在学中の校歌を斉唱して散会した。

さて、この1年間で当会にとって最も喜ばしい事は、森繁久弥君が文化勲章を受けられた事である。今迄芸能関係で受賞された方は古典関係が殆どで、森繁君のように芸域が広く、殊にテレビなどを通じて広く多くの人々に愛された方が、受賞されたのは誠に画期的なことである。我々一同森繁君に心から御祝いの言葉を申し上げる。この11月に同君の大阪での劇場公演がある。我々同様、同窓会一般の方々の御後援をも期待する次第である。

(幹事 布施敏信・中村 治)

72期同窓会開催

120周年に母校へ贈金

昭和35年3月に母校北野高校を卒業した72期生の学年同窓会が、卒業33周年を記念して6月6日(土)にホテル日航大阪で開催された。母校から恩師5名(西田、石田、寺田、博本、稲葉各先生)と同期生136名が出席。皆50代を迎えたので、まず清野裕君(京大医)による成人病(主に糖尿病)についての講演をきき、肥塚敏彰君(現北野高校教頭)の現在の母校の話と校歌斉唱でしめの間に楽しい一時を過ごし、全員の記念写真を撮って散会した。今回は3年後に開くことを約し、代表幹事を磯村昭夫君、戸谷孝子さんに交替した。また、年度理事も新原知廣君と戸谷さんに交替した。

なお、来年迎える母校創立120周年の募金に、学年同窓会の残金から20万円を贈金した。

(72期代表幹事 南尚三、黒田朋子)

別紙同窓会員不明者リスト
を見て、不明者の消息を、
事務局宛お知らせ下さい!!

六稜同窓会事務局

菩提樹の旅

— ロストックから北野の庭へ —

林 泰 三 (58期)

シューベルトの「冬の旅」の中の名曲「菩提樹」は歌いつがれて久しいものがあるが、3年前、北ドイツのバルト海に面した港町ロストックから、菩提樹の苗木が京都へ届けられた。そのうち5本が今、北野高校の庭に息づいている。

その因縁は、京都在住の東独人画家ハインリッヒ・ラデロフが1988年故郷の町ロストックで里帰りの水墨画の個展を開いたことにはじまるのであるが、禅文化研究所々々長であり、現在嵐山の天龍寺管長平田精耕老師が、彼の快挙を支援され、ロストックの美術館で「禅セレモニー」として、盛大に会が行われた。

京都市長の親書をもって、平田老師を団長とする使節団が、ロストック市を訪れ、市長をはじめ市をあげての歓迎をうけ、大いに東西の両市の友好は深められた。私もその一人として老師と同行した。それを契機に日本の花・桜と東独の国民樹・菩提樹の、交換植樹の計画がもちあがった。この計画に賛同して協力を申し出た京都在住の桜博士、佐野藤右衛門さんが、桜の若木200本を寄贈、ロストック市からは菩提樹の苗木200本が、東西ドイツ大使館の協力で、ルフトハンザ航空により送られてきた。関係各位の御好意により、その5本を北野高校の庭に植えることができた。運かなる空間をこえ、やってきた苗木が、異国の気候にたえて成長することをたゞ祈るだけである。

ラデロフの個展以後、1年とたたないうちに、東独には民主化デモが起り、それがベルリンの壁解放と、予期しない変化へとつながっていった。壁が崩れ、東西ドイツの統一と、目まぐるしい変化が生じた1990年、我々はまたロストックを訪ねた。日本庭園と記念碑の除幕式のためであった。

道端の苗木は、ところどころで枯れていた。「ここで花見ができるのは30年先だ」と佐野藤右衛門が言った。さまざまの出会いと、さまざまの別れを、昇華した30年後に、この桜の下で人々は笑い、さんざめく。その時、日本の菩提樹は、それぞれにどうなっているだろう。北野の庭では、菩提樹が枝を伸ばし、葉を茂らせ、その下で人々が憩うようになっていたら、嬉しいことだが……それは遠い先のことである。(抄録)

TEL (代表) 06-306-0374

06-306-1334

FAX 06-306-1335

第3回 六稜期別対抗ゴルフ

優勝の67期チーム

67期 初優勝!! 72期の三連覇を阻む!!

68期 2位、72期 3位 (3チーム同スコア)

第3回六稜期別対抗ゴルフは平成4年8月22日(土)、西宮高原に15期142名が参加して開催された。今年の注目目は、強豪72期の三連覇なるかどうかであったが、結果は67・68・72期が445点(1・2・3・5・7位の合計)の同スコアで並ぶという大接戦となった。年長期順ということで67期に栄冠は輝いたが、年毎に各期の實力は接近しており、来年の大会が楽しみになってきた。

個人の部門では、ベストグロス、72期・藤本紀男君の79、女子の部は68期・福原和枝さんの93。又、ブービー賞は65期・西田貞夫君が、女子の部のブービー賞は69期岩本洋子さんが手にした。全ショートホールにかけられたニアピン賞は、津森 稔(68)・斎藤建司(70)・半田雄次郎(74)・小林聡介(69)・米田宏巳(65)・川本新一郎(62)・川本晴男(64)・今井克一(71)の各君が手にした。

今回の開催に際し、賞品を寄贈して下さいました、次の各位に御礼を申し上げます。

大倉勝仁(61)、栗田仙次(61)、中馬弘毅(67)、掛下胤延(69)、岩本洋子(69)。 以上



(後列) 左より鈴木良太郎、中川和宏、松本真、武内敦治、竹内博、神宅寿昭、村上正彰
(前列) 左より鈴木富美子、中馬弘毅、福原孝司

ゴルフ天高戦 第1回を制す!!

第2回は天王寺、次回は本年12月10日

故平石ピンタ先生の御子息、嘉男氏は天王寺の御出身で、同校OBゴルフの御世話役、同氏から対抗ゴルフの申出があり、第1回が、平成3年12月5日、西宮高原ゴルフクラブにて、各チーム20名ずつが参加、上位の男子9名、女子1名のトータルスコアで争われた。北野は徳永孝哉氏(61期)の79のベストグロスを筆頭に六稜魂を發揮、トータル861点、天高は946点であった。

第2回は平成4年4月28日、天王寺が幹事校となり、琵琶湖カントリークラブで開催。雪辱に燃える天高は47名の選抜選手を用意、対する我が北野は31名で対戦した。ルールは参加の少ない北野に合わせて31位までという、我方にとって不利。一度花を持たせてもという鷹揚さで勝を譲ったきらいもあったが、2760点对2828点と敗れた。

なお、第3回は本年12月10日、西宮高原にて開催されるが、双方40名ずつの選手が出場する。再び北野の手に優勝盃を奪回するべく、事務局では出場選手の人選を急いでいる。(下の写真、前列中央がピンタ先生御子息)



第3回 期別対抗ゴルフチーム別成績表

		1位	2位	3位	5位	7位	トータル
1	67期	81	84	89	95	96	445
2	68期	82	85	89	94	95	445
3	72期	79	86	90	93	97	445
4	71期	83	88	90	92	97	450
5	62期	85	86	90	92	108	461
6	66期	86	89	92	96	98	461
7	65期	89	90	91	99	99	468
8	70期	87	90	95	97	100	469
9	64期	83	89	91	96	119	478
10	69期	89	90	94	99	107	479
11	75期	88	95	96	99	107	485
12	73期	93	96	97	102	105	493
13	74期	87	94	97	103	123	504
14	61期	87	93	96	113	117	506
15	76期	99	99	108	116	122	544

(オープン参加、60期6名、63期6名、59期1名、95期1名。)

個人の部(上位のみ)、①藤本紀男7279、②前田陸弘6781、③村田佳司6882、④赤尾賢次郎6883、④塚田雄一郎6883、⑥神宅寿昭6784、⑦長谷川圭市6285、⑦上条孝二6885、⑨梅村賢太郎6286、⑨中西藤和6886、⑨沖辺宏7286。
女子の部(上位のみ)、①福原和枝6893、②坪井美和子7097、③久保田静73100。

プロフィール



NHK大阪 アナウンサー

有働由美子

(99期)

昭和44年3月22日生まれ

昭和59~62年 北野高校

所属クラブ剣道部

昭和62~平成3年 神戸女学院大学

文学部総合文化科

平成3年

NHK大阪入局

「いいスーツを着て賢そうにニュースを読む人」「華やかに番組の司会をする人」NHKのアナウンサーほど周りからのイメージと実質が遠く職業はないと思う。

入局一年半、流れニュース、朝のニュース番組の中継、コンクールの司会、お知らせ、甲子園のリポーター、きょうの料理、スポーツのインタビュアー。確かに、一見華やかに見える仕事かもしれない。

しかし、いまわたしがしている仕事というと、一週間でいえば5日は外へ取材に行き、残りの2日がテレビやラジオのニュースなど読む仕事である。ほとんどが外へ出る取材である。

取材といっても発生事件について調べるだけでなく、何もないところからネタを探す。そしてそれをレポートにするのが、いま私のやっている主な仕事である。とにかく現場。外へ出て、何を見て、何を感じ取って帰るか。正直言って、毎日、ネタを見つけたせいで、のたうちまわっている。

こういうことをするのは、ニュースというのは、スタジオで読むものだけでも、現場なしでは語れないものだからである。たとえば交通事故のニュース。毎日のように耳にするニュースだが、その中でも、その事故は、何がNEWSなのか。だれが亡くなったかを報せることなのか？ その場所が危険であり注意を要するという事なのか？ 特殊な事故だったということなのか？

書いている記事が、撮ってきたカメラマンが、何を意図しているのかを読み取ることができないと、せっかくなのでNEWSを正しく伝えられないからである。下読みが

できない緊急のニュースはなおさらである。

その判断力のようなものを身につけるためにするのである。

よくマスコミの仕事は時間不規則で大変でしょうといわれるが、大変なのは時間や体力ではなく、こうした判断力、ものの考え方のようなものを、常に問われるところだと思う。もちろん知識も、ときには性格人柄も見られる。

テレビというものはごまかせるようだが実はとても正直で、表面だけ取り繕ったものは、今の視聴者にはすぐに見破られてしまう。恐ろしい職業についてたものだとつくづく思う。

私は高校の頃には、将来は、新聞かテレビの記者になりたいと決めていた。就職活動も、迷わず記者を志望したが、蓋を開けたらアナウンサーになっていた。だからこういうアナウンサーになりたいというものも持っていないし、NHKだからといって、型にはまろうとも思わない。今はまだ、風物詩ネタの記事さえもとちったりまちがったりで、毎日のように怒鳴られているが、アナウンサーという職業である以上、喋るという専門技術は身に付けながらなにか納得できるものを探そうと思っている。

まだまだ「馬鹿野郎」を繰り返される毎日ですが、普通感覚を失わないで、真剣に取り組みながら、でも真面目なことを面白く楽しく伝えられるような余裕を身に付けたいと思いつつ、今日も炎天下取材に出掛けます。

なお、OBの皆様で、なにか面白い話があるときは、ぜひご一報ください。切にお願い致します。

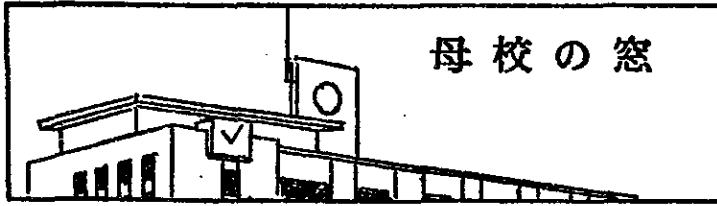
年会費は 2,000円です !!

よろしくご協力をお願いしまあす !!!

年会費制度の採用によって、随分と同窓会運営に余裕ができ、総会の運営・会報の発行、その他の事業も順調に進めてまいりました。ご協力を感謝し、謹んでお礼申し上げます。納入は郵便振替を利用して下さい。

番号 大阪9-068025 名称 六稜同窓会

▲お手元の六稜会報郵送封筒の表の *印 は平成3年度年会費納入済の印です。



母校の窓

職員異動

御退職

本田 豊治事務長(H1~H4)
小西 寛一先生(S38~H4) 英語
本田事務長は現在中河内府民センターでお勤めになっておられ、小西先生には非常勤特別嘱託員として引き続きお世話になっております。昨年御退職後一年間、特別講師としてお世話になりました博本先生は、この春北野を去られ、現在は私立履正社高校で教鞭を執っておられます。

御栄転

西淵 万吉主査(H2~H4)
は、松原高校事務長にご栄転になりました。

御転任

小川 泰彦先生(S56~H4) 国語
は、港南高校へ
中野 祐二先生(S37~H4) 社会
は、大正高校へ
近藤 洋子先生(S57~H4) 社会
は、刀根山高校へ
平野 修二先生(S55~H4) 数学
は、茨木東高校へ
尾野 光夫先生(S53~H4) 理科
は、私立四天王寺高校へ
田中 正博先生(S57~H4) 国語
は、豊島高校へ
それぞれご転動になりました。

御着任

次の先生方をお迎え致しました。
田中 昭男事務長 食品産業高校 事務長
山口 典子先生(国語) 八尾北高校
船所 武志先生(国語) 大正高校
田中 清道先生(社会) 少路高校
西川 禎一先生(数学) 西淀川高校
小田切佳代子先生(英語) 刀根山高校
村島 隆子先生(英語) 池田北高校
奥野 利明主査(事務) 平野高校

御不幸

藤井 通雄 元校長先生(S6卒 46回)
S27~S33 社会科教諭
S34~S37 教頭
S47~S49 校長
が、本年1月お亡くなりになり、
金森佐太郎先生(S18~53 化学)
が、本年9月に、お亡くなりになりました。心よりご冥福をお祈り致します。

部・同好会へ激励金!

今年度から、文化部・運動部及び同好会の、近畿大会以上の大会出場に際し、同窓会より激励金をいただくことになりました。従来から、全国大会出場などめざましい成績を収めた部に対し、部あるいはOB会の申し入れにより特別援助金が出されておりましたが、今回の規定は大会出場決定に伴い、一律的に激励金を授与するものです。

個人	近畿大会	1万円
	全国大会	2万円
団体	近畿大会	3万円
	全国大会	7万円

今年度、この規定の初の適用を受けたものは、以下の通りです。
山岳部男子団体 インターハイ出場
山岳部女子団体 インターハイ出場
水泳部廣瀬真美 近畿大会出場
インターハイ出場
ありがとうございました。

第7回文化活動振興賞決定

第7回文化活動振興賞は書道部と新聞部に与えられることになりました。書道部は、全国高等学校総合文化祭および大阪芸術文化祭などへの意欲的な出品・入賞実績が評価され、第4回(昭和63年度)に続き2度目の受賞です。
新聞部は、少数部員ながら、六稜新

聞の伝統の継承、さらに速報としてのRNC通信や双方向型メディアとしてのThe Press RNCの発刊が評価されました。

平成4年度文化活動助成金

文化祭当日、振興賞の授与式に続いて、助成金の審査が行われ、以下の部に決定しました。

コーラス部、生物研究部、書道部

クラブだより

4. 8. 1 現在

【柔道】

公式戦、第40回全国大会大阪府北地区予選会、対芥川勝、対北陽負。
第14回全国高等学校柔道選手権大阪府予選会兼第41回大阪高等学校新人柔道大会兼近畿大会予選北地区大会対茨木西負。平成4年北地区学年別大会1年の部、北野B対関大一高負。北野A対東淀工B負。平成4年北地区学年別大会2年生の部、北野B対北千里B負、北野A対豊中A負。
連絡先 〒561 豊中市庄内東町6-8-4 福田 稔宛

【男子バスケットボール】

公式戦、大阪総体、120-29淀商、45-62大阪学院。新人戦、71-49北淀46-58豊島。全国高校総体府予選、100-30成城工、67-47寝屋川、66-45関大一、71-42金岡、75-55大阪産大、61-63東百舌鳥。(府下ベスト24) 定期戦、天高戦、67-33天王寺。四高定戦、61-48灘、67-63神戸。

【女子バレーボール】

公式戦、大阪高校総体、2-0豊島、0-2吹田東、2-0柴島。府立高大会、2-0摂津、0-2高槻南、0-2島上大冠。秋季部別大会、2-1寝屋川、2-1布施、1-2河南。春高バレー予選、2-1天王寺商、2-0岸和田、1-2大阪国際大和田。春季部別大会、1-2寝屋川、0-2島上大冠、0-2三島。

近畿大会予選、2-0市岡商、0-2山田。定期戦、0-2天王寺。

【剣道】

公式戦、大阪高校総体、男子、対泉南高校勝、対金光八尾高校勝、対箕面学園負。女子島本高校負。新人戦予選、男子、対摂津高校勝、対島上高校勝、対履正社高校負。女子、対春日丘高校負。同大会中央大会、男子、対堺西高校負。全国大会府予選、男子、対北淀高校勝、対中根高校勝、対刀根山高校勝、女子、対三島高校勝、対茨木西高校勝。同大会中央大会、男子、対西野田工高校負。女子、対福島女子高校負。

【バドミントン】

吉野健太郎がシングルスで近畿大会に出場し、ベスト8に入る。冬の大阪高校選手権で優勝。公立高校生の優勝は6年ぶり。春のインターハイ予選は惜しくもベスト8に終わる。連絡先 〒533 大阪市東淀川区大道南1-7-11-206 日浦学宛

【器械体操】

91年7月下旬、東大阪市立中央体育館にて府立高校大会参加。8月上旬同じく中央体育館にて二部大会参加。8月下旬、中央体育館にて大阪高校総合体育大会参加。11月上旬、堺市立金岡公園体育館にて新人大会参加。92年5月上旬、同じく金岡公園体育館にて大阪高校春季体育大会参加。また、8月1-5日、本校にて合宿。

【女子バスケットボール】

公式戦、大阪高校総体一回戦109-13金光第一、二回戦19-151蕪英。府立高校大会68-62阿武野、45-84茨木西、48-61春日丘、45-69千里。新人戦一回戦不戦勝、二回戦39-36島上、三回戦52-69池田北。全国高校総体府予選一回戦53-48夕陽丘、二回戦103-24農芸、三回戦43-92東豊中。

【山岳】

インターハイ(静岡県)男子11位。大阪高校総体、男子3位、女子1位。近畿大会、男子3位、女子7位。大

阪高校秋季登山大会、男子1位、女子1位。この夏宮崎でのインターハイに男女共出場。

連絡先 〒532 大阪市淀川区東三国4-17-7メゾンハヤシ201号室 新大阪教育センター内 六稜山岳会事務局 ☎06-395-3521

【サッカー部】

公式戦、高校総合体育大会夏季、3-0大阪青凌、2-2(PK3-5)箕面学園、北摂リーグ、2-2春日丘、0-3豊中、0-3北陽、1-2大商学園、4-3柴島、5-1関西大倉、5-0池田、3-2東淀川。冬季大会、5-0北淀、1-2門真西。春季大会、5-1守口北、1-0鳳、2-1花園、1-0茨木東、2-3長野。

定期戦、2-0膳所、1-2天王寺。連絡先 〒563-01 大阪府豊能郡豊能町新光風台5-9-4 難波寿太郎(六稜サッカー部OB会) ☎0727-38-6837

【ラグビー】

公式戦、全国大会予選、32-0池田北、25-3摂津、52-0桃山学院、32-6布施、9-3東海大仰星、0-24工大(準優勝)。近畿大会予選、67-0島上大冠、31-4阪南大、24-0太成、13-6阪南、0-21啓光学園(準優勝)。大阪総体(春期大会)、36-6交野、0-17島本、定期戦、48-6神戸、13-4洛北、28-10天王寺。

連絡先 六稜ラグークラブ 〒560 豊中市緑丘2-20-7 自見弘之、☎06-849-3633 医院☎06-301-3962

【合気道】

7月下旬より天之武産合気塾道場にて合宿をし、昇級試験の実施。10月には、演武大会にて各校と技を競い合い、技の向上につとめました。3月から2年生は本校文化祭演武大会の練習に入り、3年生は昇段試験の実施。京都大学との合同練習も行いこれからも実施していく予定。秋には北千里高校などとの関西演武会に参加しました。

【女子テニス】

赤坂杯、宗田本戦。パンクラフト杯、宗田本戦。対市岡3-0。

連絡先 〒532 大阪市淀川区新北野2-5-13 中田義彦 ☎06-303-5661

【陸上競技】

大阪高校駅伝13位。大阪高校女子駅伝12位。大阪陸上選手権大会、松本100m、上山・松本・中山200m、上山400m、吉川800m、加藤六5000m、竹本400m、青木800mに出場。

【水泳】

公式戦、高校総体、女200個メ4位廣瀬。新人戦、女200個メ3位廣瀬、男200種12位増尾、門脇、山河、辻本。女200種10位池田、小郷、清田、廣瀬。女400混種10位清田、高橋、廣瀬、小郷。中央大会、女200個メ4位廣瀬。定期戦、対市岡勝、対果尼勝、対大手前負、三校戦2位。

連絡先 平成元年卒、一宮 誠 〒606 京都市左京区吉田下大路町30 松村様方 ☎075-751-8032 帰省先 〒562 箕面市牧落5-1-36 ☎0727-23-5494

【男子テニス】

大阪高校総体、片岡ベスト32順位戦18位、荒木・片岡組ベスト8。近畿大会、片岡ベスト16、パンクラフト飯田本戦出場。赤坂杯ダブルス荒木・奥村組3位。大阪高校秋季団体戦4位。第2・4回Cリーグ、片岡優勝。田村杯荒木、片岡本戦出場。欧州派遣予選荒木、片岡出場。サンケイジュニア荒木、浅葉、片岡本戦出場。大阪ジュニア片岡ベスト32。筆坂ベスト64。春季高校総体片岡ベスト16、荒木ベスト32。筆坂本戦出場。荒木・片岡組ベスト16、飯田・浅葉組ベスト32。春季団体戦ベスト16、赤坂杯筆坂3位。サンケイジュニア筆坂3位、筆坂・奥村組ベスト8。

【野球】

公式戦、1991年度夏季大会、高槻北4-3、清友2-1、岸和田9-8、三国丘3-8(延長11回)。秋季大会、貝塚南2-3。春季大会佐野工3-6。定期戦、天王寺2-6、市岡6

—6、1992年度夏季大会、福泉4—1、吹田1—0、島上大冠2—7。

【男子バレーボール】

公式戦、大阪高校総体、2—0関大1、0—2池田北、2—0東豊中。府立高大会、0—2桜塚、1—2池田、2—0島上。秋季部別大会、0—2布施、2—1市岡、2—1生野工。春高バレー府予選、2—0和泉、2—0佐野日根野、2—1門真南、0—2桜塚。第一回西田杯、0—2島本、2—0豊島。春季部別大会、2—0府立工専、2—0佐野、2—1富田林(2部昇格)。近畿大会予選、0—2大手前。定期戦、2—0天王寺。

【ハンドボール】

公式戦、秋季総体14—7東淀川、6—17北陽。新人戦14—13西野田、9—16桜宮。春季総体24—7池田、12—23北陽。天高戦26—8(新人)、19—21(現役)。
公式戦、秋季総体3—7成蹊。新人戦7—21福島女子。春季総体4—9成蹊。天高戦12—16(新人)。

【卓球】

男子、大阪高校選手権大会、ダブルス、柴田・北村、蒼・大沼ベスト64、北摂大会、Aチーム3位、シングル大沼3位、ダブルス、柴田・北村3位。
女子、北摂大会、Aチーム準優勝。

【ソフトボール】

91年大阪総体予選、一回戦4—6三島。夏季公立研修リーグ3—5羽曳野、15—7工芸、7—0狭山。部別大会、5—0樟蔭、12—0高津、11—0豊島、10—0清水谷、1—3春日丘。第一学区大会、2—3渋谷、9—1東豊中、1—3刀根山、22—6豊中。春季公立研修リーグ、13—2藤井寺、0—4河南。
92年インターハイ予選、11—5信愛女学院、3—10金蘭会。大阪総体予選、10—5羽曳野、11—3池田北、3—0泉北(府下ベスト16)。

【書道】

10月第1ブロック展。池田市立中央公民館にて、1人1点ずつの出品なれど質は高いとの評価を受ける。6月文化祭の後、気を抜かず、夏期休暇、9月と頑張った成果。

11月、大阪芸術文化祭書道部門に参加。応募作品5点。審査の結果5点共に合格。(1校当り出品は最大5点まで)。平成4年2月、ユースアートギャラリーにて陳列。内1点は奨励賞受賞。

11月、書道コンクールに出品。書芸連盟賞。書教育研究会賞受賞。平成4年1月、全大阪高校書道展。市立天王寺美術館にて、盛況の内に終了。

3月、高野山蓮華定院にて合宿。6月の文化祭に向けての作品作製、練習。2泊3日の合宿なれど、1日10数時間の練習で、成果は極めて大。連絡先 来年は北野創立120周年です。記念展示も計画中。阿部先生を囲む会と書道部全体の名簿作りが急務です。北野高校内高岡靖弘迄。

【文芸】

「幻」年3回発行。文化祭で北野文学52号発行、「与謝野晶子研究」発表。

【E.S.S】

文化祭、劇「ひらけ!!やしの実」公演。夏～冬、英語検定・弁論大会出場などに向け活動中。

【物理研究】

文化祭にて、オリジナルパソコンソフト3種発表。(PC88×2、MZ2500×1)それぞれ、BASIC言語+機械語による作品。また、電子工作として、自作UFOキャッチャーを発表。PC88で4相ステップモータを制御。インターフェイス回路はCMOSIC6個で構成し、4基のモータを独立制御可能。

【生物研究】

7月 夏期合宿「四万十川」
8月 灯火採集「妙見山」
10月～2月 冬鳥の生態観察
3月～4月 部誌「L.U.P.E」第29号の編集・発刊
4月 大阪環境保全協会主催の里山

調査参加、箕面自然観察

4月～6月 文化祭準備・展示(アサガオの短日処理実験・モンシロチョウの羽化実験・校内植物調査・組織培養・淀川の水鳥の生態観察など)
ひき続き研究中
7月 夏期合宿「朽木村」
9月 部誌「L.U.P.E」第30号製作開始予定。

連絡先 〒939-27 富山県婦負郡婦中町友坂243 上村 清
☎0764-69-5426

【地学研究】

91年8月富田林市石川河床足跡化石発掘参加。92年6月の文化祭にて15cmの反射望遠鏡作成・太陽の黒点観測結果、文献による火山活動調査を発表。

【美術】

第43回高校展出品(1年飛岡、デザイン部門奨励賞受賞。8月大阪市立美術館、あべのベルタ)。
第1ブロック展出品(1月サンブラザ)。第13回高校芸文祭初出品(1年藤原、デザイン部門入選、1月・ユースアートギャラリー)。校内展開催(4月)。文化祭では再び3教室で、作者紹介のパネル、及び共同制作として立体作品とTシャツを展示。
連絡先 創立120周年にむけて、OB名簿をまとめたかと考えています。北野高校美術部宛、御連絡を!

【コーラス】

大手前高校との交歓会「この地上」より3曲。六校交歓音楽会「ふるさとの四季」。新入生歓迎音楽会「ひとつの朝」「筑後川」より「河口」他男声合唱3曲女声合唱2曲。文化祭「玄海」より2曲女声合唱2曲、男声合唱2曲。
連絡先 稜声会事務局
大阪市淀川区田川3—4—15—212
〒532 ☎06-308-5947

【園芸同好会】

ペチュニア、ゼラニウム等の花を育成中。化学講義室前に小花壇を設置。文化祭では苗の配布等を行いました。

【オーケストラ】

十一月、六校祭（シュベルト「ロザムンデ序曲」）・一月、扇町教会音楽礼拝・六月、文化祭（ベートーヴェン交響曲第一番）に出演。現在六校祭に向けてドヴォルザーク交響曲第八番第三楽章に取り組んでいます。

【写真】

文化祭において、カラー作品10数点、白黒作品約50点を展示。また、体育大会での公式記録用写真の撮影と編集、サッカー部より依頼されている試合撮影などを行なった。

【新聞】

11月 六校新聞第163号発行
THE PRESS RNC
第1号発行
12月 THE PRESS RNC
第2号発行
2月 六校新聞第164号発行
THE PRESS RNC
第3号発行
4月 六校新聞第165号発行

【放送】

文化祭にて放送劇「Down fall 一過ちの物語」を上演。現在KBS京都・全国民間放送連盟主催「こちら青春放送局」の応募作品に取り組んでいます。

【演劇】

昨年度は休部。今年の文化祭ではアメリカ、イギリス、東南アジアの演劇について展示しました。

【囲碁・将棋】

今年度より部に昇格。
近畿高校囲碁選手権大会5位。
全国高校囲碁選手権府大会2位。

【漫画研究同好会】

平成3年6月、文化祭参加。別冊会誌発行。8月、連合漫画祭参加。
11月、会誌「逢魔が時6」発行。4年5月、校内展参加。
連絡先 〒555 大阪市西淀川区出来島3-3-2-1302 大和田 妙

大学合格者一覧表 (4.5.2現在)

国立	男女計	九州大学	7	1	8	東京工科大学	1	1	1	大阪電気通信大学	2	1	3	華頂短	1	1			
北海道大学	3	5	8	九州芸術工科大学	1	1	2	東京女子大学	2	2	大阪薬科大学	5	18	23	京都芸術短	1	1		
北見工業大学	1	0	1	佐賀大学	1	1	1	東京電機大学	1	1	大谷女子大学	1	1	1	京都女子大短	13	13		
山形大学	2	0	2	大分医科大学	1	1	1	東京農業大学	1	1	関西医科大学	3	1	4	京都文化短	2	2		
筑波大学	3	1	4	宮崎大学	1	1	1	東京理科大学	15	6	21	関西外国語大学	3	3	嵯峨美術短	1	1		
千葉大学	2	2	宮崎医科大学	1	1	1	東洋大学	1	1	1	関西大学	75	50	125	同志社女子大短	2	2		
東京大学	10	10	10	鹿児島大学	1	1	1	日本女子大学	1	1	1	近畿大学	23	17	40	大阪学院短	1	1	
東京外国語大学	2	2	2	琉球大学	2	2	2	日本大学	3	3	3	西天王宮短期大学	1	1	1	関西外国語短	3	3	
東京学芸大学	1	1	1	合計	26	144	139	法政大学	1	1	2	摂南大学	2	7	9	倉藤短	1	1	
東京工業大学	2	2	2	公立	男女	男女	男女	武蔵野美術大学	1	1	1	相愛大学	3	3	3	相愛女子短	1	1	
お茶の水女子大学	1	1	1	横浜国立大学	1	3	4	明治大学	2	3	5	帝塚山学院大学	6	6	6	梅花短	6	6	
電気通信大学	1	1	1	福井県立大学	1	1	1	明治薬科大学	1	1	1	梅花女子大学	5	5	5	甲南女子大短	3	3	
一橋大学	5	2	7	岐阜薬科大学	1	1	1	立教大学	1	1	1	阪南大学	1	1	2	神戸学院女子短	1	1	
横浜国立大学	3	1	4	名古屋国立大学	1	1	2	早稲田大学	22	6	28	桃山学院大学	4	1	5	神戸女子短	3	3	
富山大学	2	2	2	京都市立芸術大学	1	1	1	藤布大学	1	1	1	関西学院大学	80	64	144	夙川学院短	1	1	
金沢大学	2	2	2	京都府立大学	4	6	10	神奈川大学	1	1	1	甲南女子大学	8	8	8	松蔭女子学院短	6	6	
福井医科大学	1	1	1	京都府立医科大学	3	3	3	中央大学	1	1	1	甲南大学	11	17	28	武庫川女子大短	5	5	
山梨医科大学	1	1	1	大阪女子大学	3	3	3	名城大学	0	0	0	神戸国際女子学院大	1	1	1	帝塚山短	1	1	
静岡大学	2	2	4	大阪市立大学	16	13	29	大谷大学	1	1	2	神戸学院大学	2	6	8	合計	64	64	
静岡工大	2	1	3	大阪府立大学	16	10	26	京都外国語大学	7	7	7	神戸芸術工科大学	1	1	1	學士大学等	男女	計	
浜松医科大学	1	1	1	神戸市外国語大学	1	2	3	京都産業大学	8	2	10	神戸学院大学	20	20	20	海上保安大学校	1	1	
名古屋大学	1	1	1	神戸商科大学	2	1	3	京都女子大学	21	21	21	神戸女子大学	8	8	8	気象大学校	1	1	
三重大学	2	2	4	総務工業大学	6	2	8	京都精華大学	1	1	1	神戸女子薬科大学	19	19	19	防衛医科大学校	2	1	3
滋賀大学	2	4	6	奈良県立医科大学	1	1	1	京都橘女子大学	3	3	3	松蔭女子学院大	7	7	7	防衛大学校	1	1	
滋賀医科大学	3	2	5	奈良県立医科大学	1	2	3	京都薬科大学	3	10	13	兵庫医科大学	2	1	3	合計	5	1	6
京都大学	74	8	82	京都山崎医科大学	1	1	1	光華女子大学	1	1	1	武庫川女子大学	15	15	15	専修学校等	男女	計	
京都教育大学	2	3	5	合計	54	45	99	同志社女子大学	19	19	19	流通科学大学	4	4	4	大阪厚生年金会看護	2	2	
京都工芸繊維大学	11	4	15	私立	男女	男女	男女	同志社大学	99	24	123	帝塚山大学	1	1	1	大阪済生会中津看護	1	1	
大阪大学	66	24	90	東北薬科大学	1	1	1	ノートルダム女子大	2	2	2	天理大学	1	1	1	大阪市大看護専門学校	1	1	
大阪外国語大学	1	6	7	城西大学	1	1	1	花園大学	1	1	1	奈良大学	1	1	1	大阪府立公衆衛生専	1	1	
大阪経済大学	5	11	16	福祉大学	0	0	0	仏教大学	1	1	1	四国女子大学	1	1	1	国立大阪国際看護学	2	2	
神戸大学	45	32	77	千葉経済大学	1	1	1	立命館大学	45	15	60	九州共立大学	1	1	1	コンピュータ日本学院	1	1	
神戸商科大学	1	1	1	東京情報大学	1	1	1	龍谷大学	11	8	19	産業医科大学	1	1	1	行方医学技術専門学校	1	1	
奈良教育大学	1	3	4	青山学院大学	5	2	7	通手門学院大学	1	1	2	西南学院大学	1	1	1	外国の教育機関	1	1	
奈良女子大学	11	11	22	聖徳大学	1	1	2	大阪医科大学	5	3	8	福岡大学	1	1	1	合計	1	9	10
和歌山大学	4	1	5	桜葉林大学	1	1	1	大阪学院大学	2	2	2	合計	51	40	91	統計	男女	計	
鳥取大学	1	1	1	麗心看護大学	31	8	39	大阪経済大学	1	2	3	鶴大	男女	計	国家公務員	1	1		
鳥取医科大学	3	3	6	大阪基督教大学	1	1	1	大阪経済法科大学	2	2	4	名古屋大医療技術短	0	0	0	大阪市公務員	1	1	
岡山大学	3	1	4	上智大学	2	6	8	大阪芸術大学	2	1	3	京都大医療技術短	2	2	2	吹田市公務員	1	1	
広島大学	5	3	8	昭和薬科大学	1	1	1	大阪工業大学	5	1	6	大阪大医療技術短	4	4	4	茨城県公務員	1	1	
山口大学	1	1	1	白百合女子大学	1	1	1	大阪国際大学	1	1	1	神戸大医療技術短	1	1	1	民間企業	1	1	
徳島大学	1	1	1	聖心女子大学	1	1	1	大阪産業大学	3	1	4	滋賀県立短	1	1	1	合計	5	5	
愛媛大学	3	3	6	中央大学	7	7	7	大阪薬科大学	1	3	4	京都府立女子短	1	1	1	合計	5	5	
愛知大学	1	1	1	津田塾大学	2	2	2	大阪経済女子大学	3	3	3	大阪府立看護短	1	1	1	合計	1	1	
高知医科大学	1	1	1	東海大学	1	1	1	大阪産業大学	1	1	1	神戸市立看護短	1	1	1	合計	1	1	
福岡教育大学	1	1	1	東京医科大学	1	1	1	大阪体育大学	1	1	1	大谷大短	1	1	1	合計	1	1	